



川島ホスピタルグループ広報誌

Vol.10
2012 Autumn

特集

災害対策

— 川島病院にできること —

災害対策委員会の活動
防災意識の向上をめざして
震災対策会議の紹介・防潮板完成

職員アンケート

家庭での備え

平成24年度事業計画

社会貢献

私たちにできること・^{へきち}僻地医療事始め
「とくしま協働の森づくり事業」へ参画

2011-2012 Photo Gallery

第2回 川島病院 市民公開講座

2011年業績集



K ind 優しい

H onest 誠実な

G rowing 伸びゆく

医療法人 川島会

●川島病院

●鴨島川島クリニック ●鳴門川島クリニック ●脇町川島クリニック

社会福祉法人 飛鳥

ケアハウス ●在宅介護支援センター ●デイサービスセンター ●ヘルパーステーション

川島ホスピタルグループ広報誌 第10号 2012年9月発行 発行/川島ホスピタルグループ

〒770-8548 徳島市北佐古一番町1-39 TEL.088-631-0110 FAX.088-631-5500

編集/川島ホスピタルグループ・広報委員会 川島ホスピタルグループホームページ <http://www.khg.or.jp> 印刷・製本/太陽高速印刷(有)





写真は剣山系の一の森ヒュッテ前から、東(徳島市方向)を写したものの。

Contents

Kawashima Hospital Group Magazine

2 特集 災害対策 —川島病院にできること—

災害対策委員会の活動

災害対策委員長 板東高志(歯科医師)

防災意識の向上をめざして

災害対策委員 清水一郎(臨床工学技士)

震災対策会議の紹介

防潮板完成

職員アンケート 家庭での備え

16 平成24年度事業計画

17 私たちにできること

社会貢献

僻地医療事始め 島 健二

「とくしま協働の森づくり事業」へ参画

22 BEST SHOT 今年の一枚 写真・川島 周

2011-2012

23 Photo Gallery

慰安旅行・とくしまマラソン・健康・福祉フェスタ・阿波踊り・BBQパーティ

職員紹介

33 川島会のウィリアムテル 吉見俊司さん

講演

34 第2回 川島病院 市民公開講座

38 心、癒されて明日も頑張ります KHG職員のペットたち

39 2011年業績集
川島病院プロフィール



Kind 優しい

Honest 誠実な

Growing 伸びゆく

私たちの病院の理念

- 1 患者さんをはじめ、関係する方々との信頼関係を築きます。
- 2 病院経営の質の向上に努め、良質で効率的かつ組織的な医療を提供します。
- 3 地域社会の健康および福祉の増進に貢献することを使命とします。

私たちの病院の基本方針

私たちの病院は

- 1 患者さんや家族の方々との信頼関係に基づいた、患者さんの立場に立った医療を提供します。
- 2 公正な医療の提供と医療の質の向上に努めます。
- 3 腎泌尿器疾患と糖尿病の診断と治療に総合的に携わる病院として地域の皆様に信頼していただけるよう、日々全力を傾注します。
- 4 患者さんに安心して医療を受けていただけるような良質な医療環境医療体制を構築します。
- 5 地域社会の一員として、また社会的存在として行動し、その責任を果たします。

自助

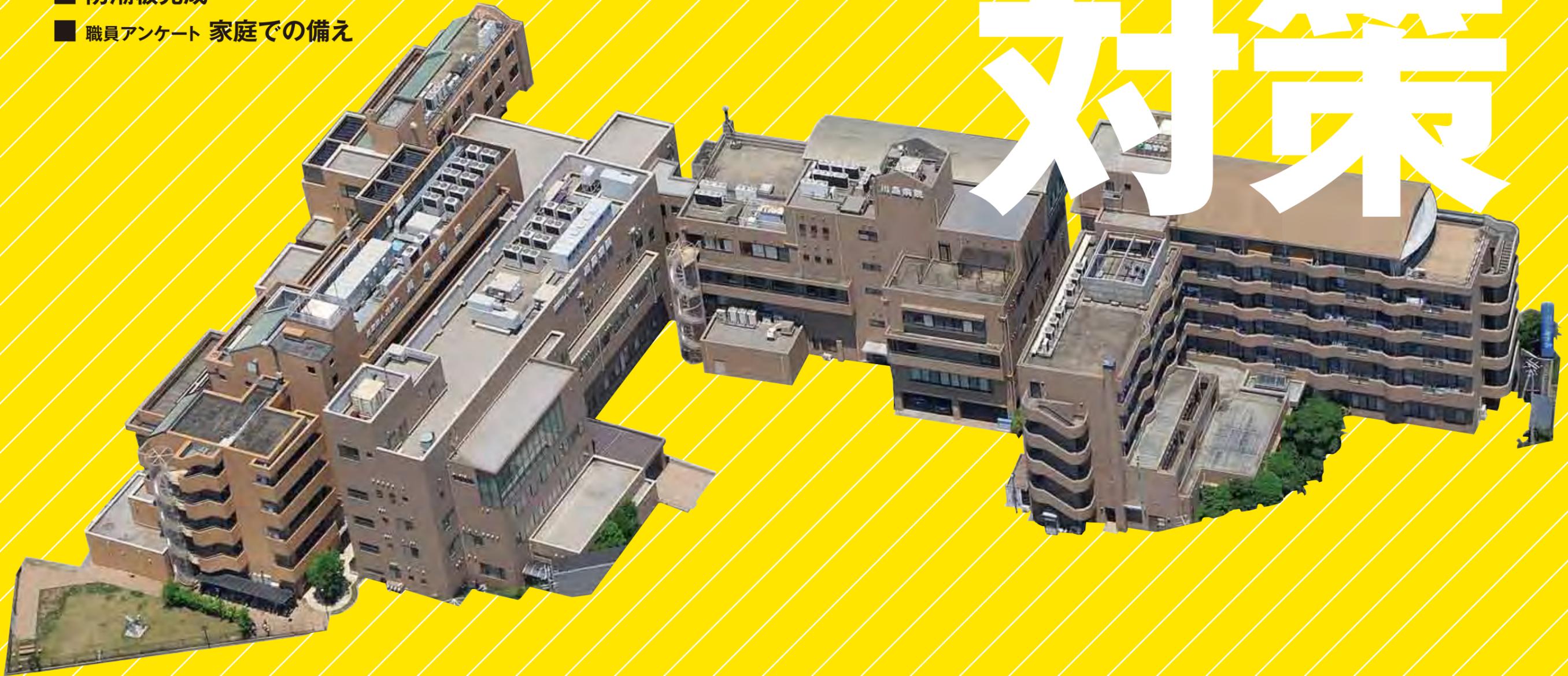
公助

共助

- 災害対策委員会報告
- 避難訓練報告
- 震災対策会議
- 防潮板完成
- 職員アンケート 家庭での備え

災害対策

—川島病院にできること—



全体訓練の様子(2012年1月)

訓練開始の挨拶



災害発生



負傷者搬送の様子



トリアージの様子



当病院ではより良い医療を提供する目的で、いろいろな委員会を設けています。今世紀前半に発生が予測されている南海地震・東南海地震に対しては、災害対策委員会を設け、委員会主導での震災に強い病院を目指した活動を行っています。板東委員長のもと、毎月委員会が開催され、災害時対応訓練や火災訓練の計画・反省、職員教育、一方、災害を最小に食い止めるために必要な設備の充実、十分な備蓄、緊急連絡網整備など、次々と持ち上がる課題に向かって議論と試行錯誤が繰り返されています。

今回は特集として災害対策委員会の活動を紹介します。川島病院の災害対策について知っていただくということになりました。

災害対策委員会の活動

災害対策委員長 板東高志(歯科医師)



はじめに

東日本大震災における教訓を基に、「内閣府・南海トラフの巨大地震モデル検討会」は、南海・東南海大地震における震度・津波高につき、さまざまなケースを想定しています。先日(8月29日)、内閣府より発表されたものでは、徳島市における震度・津波については、次のように発表されています。

最大震度：7
満潮位・地殻変動を考慮した
最大津波高：7m
津波(1m)到達時間：46分

さらに詳しい徳島県下の詳細な防災マップが待たれますが、川島病院が位置する佐古地区では津波による浸水被害は低いとされています。

当院の現在の建物は、「新耐震設計法」に基づいて構造計算を行っている耐震構造の建築物です。つまり、大地震で重大な損傷を生じなく、倒壊もしないことを目標に建築されています。

一方、平成25年年初に、免震構造を有する透析外来棟(仮称)が着工予定です。すなわち、建物へのダメージはもろんのこと、室内での被害を最小限に抑えることができる診療棟が建築されることにより、震災に強い病院へと、さらに一歩前へ進むことができます。

では、今年一月に行った大規模震災を想定した防災訓練をはじめ、施設整備、情報の伝達訓練などについて、いくつかご紹介させていただきます。



患者搬送用レスキューマット
 当院では、災害時などに患者を運ぶためのマットを準備しており、防災訓練で使用しましたが、使いにくいとの声がありました。そこで、いくつかの製品を試した後、使いやすいレスキューマットを購入しました。

非常用食料・水
 非常時に備え、食料・水が備蓄されていますが、その保管場所と数を確認しました。医薬品は、2・3日分確保されており、保管場所もわかるように「一覧表にまとめられています」。

ボイラー室・自家発電機・重油・透析用水
 自家発電装置用重油は、隣接するケアハウスあすかと1号館前に地下タンクを確保しており、あすかの地下タンクからは、2号館および3号館に自動ポンプで送油されるようになっています。水道断水時でも受水槽と地下水処理装置により、透析用水の確保をはかっております。これらの設置場所を確認するとともに、必要最小限の操作につき説明しました。



防災監視板・非常用放送設備
 火災が発生すると、火災報知器が作動しますが、その後、火元を確認したり、全館に避難等の放送をするための設備が設置されています。

当院では、前述のような大規模災害を想定した訓練を年1回行っています。が、小規模災害（火災など）を想定した訓練も行っています。これについては災害対策委員の清水技士に紹介をお願いしました。（別頁）いずれの訓練においても、前もってシナリオを作成し、ほぼシナリオどおりに進みましたが、いくつかの問題点も出てきました。

その問題点の一つが、非常用設備の場所と操作です。非常用設備については、一部の職員は場所と操作を知っていますが、大部分の職員には周知されていませんでした。このような状況では、災害が発生した際に対応が遅れます。そこで、災害対策委員が中心となって、非常用設備の説明会を実施し、下記設備の場所あるいは操作法につき、職員に説明しました。

小さなことからコツコツと

駐車場ゲート
 緊急車両あるいは避難者が、スムーズに入りするためには、駐車場ゲートを開放しておく必要があります。また、停電の際には、手で駐車場ゲートを開閉しなければなりません。

防潮板
 洪水の際には、田宮川の堤防を越えて水があふれ出すことが想定されます。そこで、病院内の浸水を最小限にするために、本院・救急入口の前に、防潮板を設置しました。

衛星電話
 大災害時には、通常の電話が使えないことが考えられます。当院では、本院とサテライト（鴨島・鳴門・脇町クリニック）との連絡用に、衛星電話を設置しました。

自動ドア
 自動ドアの近くには、自動ドアのモーターをオフするためのスイッチが付いています。災害時などにおいては、このスイッチを押して、手でドアを開ける必要があります。



窓ガラス
 すべての窓ガラスを点検し、強化ガラスではないガラスには、飛散防止シートを貼りました。

大震災発生時対応マニュアルの作成・見直し
 震災発生時には災害対策本部が直ちに設置され、各部署への指揮、情報収集の中枢として重要な働きを担います。また現場である各部署の対応、行動が速やかに混乱なく行えるよう、役割分担が細かく記述されています。10年前から病院がとりにくくなりました。マニュアルですが、病院の規模拡大、職員の増加などにあわせて、変化に対応した見直しを行っています。

緊急連絡網作成・連絡訓練の実施
 休日や夜間などにおいて多くの職員を招集したり、情報を共有する必要がある場合には「緊急連絡網」および「すだちくんメール」での連絡が行われます。常に最新の連絡網が作成されていること、また伝達に有効であるよう、訓練を行っています。

このように、一見簡単なこととして見過ごされてきたことに、再度目を向けてひとつずつ対処しています。そうすることにより、災害に強い病院に近づくとともに、各職員の防災に対する意識も高まると思われれます。

1. 避難場所と避難経路の安全が確認できたら、本部に報告し、本部の指示により避難開始する。
2. 選択した避難経路が通行不可の場合は、本部に報告し、別の経路を選択する。
3. 避難完了したら、本部に報告する。

避難者	避難場所(3F以上の階)	避難経路①	避難経路②	避難経路③	避難経路④	避難経路⑤
近隣住民	2号館4F食堂	2号館線路側階段	2号館川側階段	1号館川側階段→4F2号館への渡り廊下	1号館川側階段→2F、3F渡り廊下→2号館川側階段	1号館線路側階段→3F病棟廊下→3F2号館への渡り廊下→2号館川側階段
1・2号館外来患者	2号館4F食堂	2号館線路側階段	2号館川側階段	1号館川側階段→4F2号館への渡り廊下	1号館川側階段→2F、3F渡り廊下→2号館川側階段	1号館線路側階段→3F病棟廊下→3F2号館への渡り廊下→2号館川側階段
透析室1班	2号館4F食堂	1号館2F→2F渡り廊下→2号館2F→2号館川側階段→2号館4F	1号館2F→1号館線路側階段→1号館3F→3F渡り廊下→2号館3F→2号館線路側階段→2号館4F	1号館2F→1号館線路側階段→1号館3F→3F渡り廊下→2号館3F川側階段→2号館4階	1号館2F→1号館線路側階段→1号館4F→4F渡り廊下→2号館4F	1号館2F→1号館線路側階段→1号館1F→2号館1F→2号館線路側階段→2号館4F
透析室2班	2号館4F食堂	1号館2F→2F渡り廊下→2号館2F→2号館川側階段→2号館4F	1号館2F→1号館線路側階段→1号館3F→3F渡り廊下→2号館3F→2号館線路側階段→2号館4F	1号館2F→1号館線路側階段→1号館3F→3F渡り廊下→2号館3F川側階段→2号館4階	1号館2F→1号館線路側階段→1号館4F→4F渡り廊下→2号館4F	1号館2F→1号館線路側階段→1号館1F→2号館1F→2号館線路側階段→2号館4F
透析室3班	入院自室	1号館エレベータ(どちらか使用可能な方で)	2号館エレベータ	3号館エレベータ		
透析室4班	1号館4Fリハビリ室	1号館2F→1号館川側階段→1号館4F→リハ室	1号館2F→1号館線路側階段→1号館4F→リハ室	1号館2F→2号館2F→2号館川側階段→2号館4F→1号館4F→リハ室	1号館2F→2号館2F→2号館線路側階段→2号館4F→1号館4F→リハ室	避難場所再選定
1・2号館の負傷者(中等症者、重症者)	1病棟観察室	1号館川側階段	1号館線路側階段			
3号館外来	3号館3F待合	3号館1F→3号館階段→3号館3F	1F渡り廊下→2号館川側階段→3F渡り廊下→3号館3F	1F渡り廊下→1号館川側階段→3F渡り廊下→3号館3F	避難場所再選定	
透析室5班	3号館3F待合	3号館2F→3号館階段→3号館3F	3号館2F→2号館2F→2号館3F→渡り廊下→3号館3F	3号館2F→2号館1F→2号館3F→渡り廊下→3号館3階	避難場所再選定	避難場所再選定
3号館の負傷者(中等症者、重症者)	3号館3F待合	3号館1F→3号館階段→3号館3F	1F渡り廊下→2号館川側階段→4F渡り廊下→3号館4F	「1病棟観察室に避難」の選択も考慮		
入院患者	入院自室					

*①から避難場所に近い経路で記入



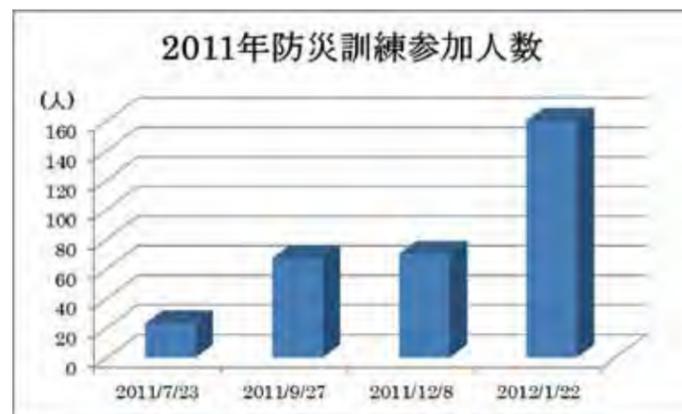
部署ごとのスタッフ訓練など
 小さな訓練を積み重ね
 大きな成果を!!

防災意識の向上をめざして

災害対策委員 清水一郎(臨床工学技士)

平成23年度に実施した防災訓練の参加人数をグラフに示します。訓練の規模や実施日時の影響はあるものの、参加人数は増加傾向にあります。これにより、職員の中で災害に備えなければならぬという意識が強くなっているということが分かります。

近い将来の発生が予想されている南海大震災など、大規模な災害にも対応できるよう常日頃から繰り返し訓練を行い、有事に備えておくことは必要不可欠です。災害発生時、患者様を安全かつ迅速に救護し避難していただけるよう今後もスタッフの意識向上に努めていきます。



当院では全スタッフ及び外来血液透析患者様を対象に、年1回大規模な防災訓練を行っています。年々参加人数は増加し、参加者の防災意識は高まってきていると感じていますが、スタッフに対する教育としてはこれだけで十分とは言えません。

そこで災害対策委員会では、スタッフ対象の訓練を年間計画として複数回実施し、スタッフの知識と経験を深めると共に、訓練ごとのアンケート調査によつて訓練内容や施設設備に対する問題点を明らかにし、改善に向けて努めています。





2011年12月 防潮板完成



川島病院の北側の入口は田宮川に面しています。大洪水、震災時の津波による建物内への浸水を防ぐ目的で、防潮板を設置しました。防潮板の展張時の高さは1mであり、この高さまでの水位ならば、水の侵入を防ぐことができます。



川島ホスピタルグループ

震災対策会議

今年で10年目の開催となりました。毎回、関連業者二十数社から約50名の参加を頂いており、震災に関する講演を聞いたあとの親睦会において、各社からアドバイスを得るようにしています。(表1回~10回)
 今年は川島理事長による「東日本大震災の医療支援活動について」、徳島県南海地震防災課 企画担当 真田太一主事より「津波について」の講演が行われました。



	開催日	講演内容	講師
第1回	2001年11月29日	①会議の趣旨説明 ②KHG各施設の概要説明 ③各業者への質疑応答	
第2回	2002年6月28日	①前もって業者に質問事項を送付し、当日、回答をもらう形式	
第3回	2003年10月24日	①「川島ホスピタルグループにおける南海地震に対する取り組みについて」 ②「南海地震について」	①水口潤院長 ②徳島県防災局南海地震対策チーム課長補佐 安原正芳
第4回	2004年10月21日	①「大震災における異業種間救援ネットワーク構築の現状について」	①佐野伊川谷病院院長 内藤秀宗
第5回	2007年1月26日	①「南海・東南海地震について」	①徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部エコシステムデザイン部門社会環境システム工学大講座 環境創生工学専攻エコシステム工学コース 教授 村上仁士
第6回	2008年1月24日	①「南海地震とは」	①徳島県危機管理局 南海地震対策計画推進担当 事務主任 大西栄一
第7回	2009年1月23日	①「水害に備えて」 ②「住宅・建築物の耐震化」	①徳島県土木整備部河川課 主査兼係長 徳永雅彦 ②徳島県土木整備部住宅課 主査兼係長 堀正人
第8回	2010年2月25日	①歯科・MRI・256列CT紹介 ②「災害と防災」	①板東高志、日下まき、木村建彦 ②徳島県危機管理部危機管理政策課 企画監 出口政治
第9回	2011年3月3日	①「南海地震の基礎知識」 ②「災害時の健康管理」	①徳島県南海地震防災課企画担当 係長 吉成浩二 ②東部保健福祉局徳島保健所医療企画担当課長補佐 稲井芳枝
第10回	2012年3月15日	①「東日本大震災の医療支援活動について」 ②「津波について」	①川島理事長 ②徳島県南海地震防災課企画担当主事 真田太一

家庭での備え

皆さんが個々に家庭や職場で日頃から備えていることなどについて教えてください。

1 日下まき (医局)

- ①防災グッズ・非常持ち出しリュックを常備しています。少し古くなっているのですが、そろそろ点検をしないといけないと思っています。
- ②阪神大震災以降、就寝中の地震で下敷きにならないような、家具やものの配置をしています。
- ③名前がわからないのですが、車に閉じ込められたときにガラスを割るための道具をのせています。実際使ったことはないのですが、どなたか経験はありましたでしょうか？
- ④台所に消火器をおいている

4 西谷真明 (医局)

- ①非常用の食糧、飲み水を準備しています。
- ②家族で災害時の避難場所について相談しています。

5 榎本勉 (放射線室)

- ①非常持ち出しリュックを準備しています。
- ②災害時の避難場所について、家族で相談しています。

2 中條恵子 (検査室)

- ①家族がそれぞれ自分用の非常用持ち出しリュックを準備しています。
- ②非常用の飲み水用に大きいペットボトルで何かずつ、車庫、家の中数箇所にわけて置いています。あと乾パン、ソイジョイ等の非常食も置いていきます。

6 猪籠浩司 (放射線室)

- ①家具の転倒防止の突っ張り棒を2か所設置しています。
- ②非常用持ち出し袋を玄関に用意しています。
- ③家族で非常時連絡できない時はどこに避難するか決めていきます。例えば「川島病院」に集合するとか。

3 吉川和寛 (医局)

- ①常に携帯ラジオを持参しています。

7 多田浩章 (検査室)

- ①非常持ち出しリュックを準備しています。
- ②災害時の避難場所について、地域や家族で相談しています。
- ③夜ヘッド近くにラジオ、懐中電灯おいています。

8 秋田悦代 (医事・診療情報課)

- ①3日分ほどの飲料水確保
- ②地域の防災マップで避難場所確認
- ③懐中電灯・ラジオ・電池準備

9 一円博行 (臨床工学技士)

- ①避難袋内の必要物品の確保(年金手帳・保険書のコピー・小銭・5日分の衣類・水5日分・保存食5日分・ラジオ・携帯電話予備バッテリー・関連・コイル式LEDライト・電池)
- ②室内の扉全部開放で就寝
- ③避難所の確認
- ④眉山への徒歩での避難の時間測定

10 小川昌平 (看護師)

- ①避難経路の確認と場所の確保
- ②はぐれた時の集合場所の確認

11 山本雅子 (医事・診療情報課)

- ①1週間の水、食事は常時保管しておくようにしています。
- ②すぐに炊き出しができるよう、炭とコンロを保管してあります。
- ③手動式懐中電灯など家族分揃えました。

12 安田建三 (放射線室)

- ①非常用持ち出しリュックを準備しています。
 - ②災害時の避難場所について家族で確認しています。
 - ③非常食と飲料水は確保しています。
- 我が家の二階には高齢の母が同居しています。避難時の対応として、
- ①ベッド脇に靴を常備してもらっています。ガラス破片から足もとを守り、少しでも早く屋外に脱出できるように。
 - ②握りに小さな懐中電灯をとり付けた「杖」も靴と一緒に準備しています。

13 椎野義博 (総務)

- ①非常持ち出しリュック
- ②避難場所(自宅の場合、職場の場合)
- ③手動式ラジオ、ランプ等携帯

14 前田さおり (歯科衛生室)

- ①非常持ち出しリュックと靴をベッドの近くに置いています。
- ②ドア付近に荷物を置かないようになっています。
- ③防災マップで近所の避難場所を確認しています。

15 笠井泰子 (看護師)

- ①非常用持ち出しリュックの準備
- ②使用している部屋に懐中電灯・ラジオ準備
- ③家族の避難場所の確認(はぐれても会えるように)
- ④大雨時に備え長靴準備

16 仲尾和恵 (看護師)

- ①非常持ち出しリュックの準備
- ②カセットコンロとポンペを常備

17 濱刈真理子 (看護師)

- ①緊急時の避難先の確認
- ②常備薬は多めに持っておく
- ③懐中電灯やラジオはまとめてわかるところに置いておく
- ④非常時に持ち出すものをあらかじめ決めておく

Pick up!

職場では、委員会や部署ごとにさまざまな対策を練り、病院全体として、非常時に備えている私たちですが、災害はいつ、おこるかわかりません。

実のところ、家庭での災害対策ってやっていますか？住居のある場所、住まいの様式、家族形態、ペットの有無など、ライフスタイルは多様ですが、最低限共通して必要な備えは何か？また思ってもみなかった見習いたい備えは何か？・・・に気づききっかけになればと、広報委員会ではサイボウズ掲示板で、各家庭での災害対策について質問してみました。

職員の一例

古賀 久光 (総務)

- ①寝室とリビングのソファ周りにはテーブル以外の家具はありません。
- ②非常食(1日3食分)と飲料水(1日3リットル)は常に三日分以上確保しており、またカセットコンロとカセットボンベ3本も常備しています。
- ③照明用に灯油でも使えるランタン(普段はオブジェ)を2個と調理に使えるアルコールランプを保有しています。
- ④雨天時の活動を考えレインスーツとレインブーツも準備してあります。
- ⑤防寒対策として保温シートも購入してあります。
- ⑥ラジオ・電池・ラップ・工具・etc...



低い机以外の家具をおいていない部屋

お宅の備えを見せていただきました。



家具転倒防止ボール設置



非常食



水、携帯ラジオ



照明用ランタン、アルコールランプなど燃料など



大歩危診療所へ 医療器械器具を寄付する

三好市の診療所に
寄付をし、
感謝状を
贈られました。

現在、僻地における医療確保は大きな課題ですが三好市においては無医地区解消のため、新たに「大歩危診療所」を開設し平成24年5月から診療を開始しています。

医療法人川島会においては、診療所開設に必要な電子内視鏡システム、X線撮影装置、血圧脈波検査装置など医療器具を大歩危診療所に寄付いたしました。

こうした当会の地域医療の取り組みに対して、平成24年4月に三好市長から感謝状をいただきました。



東日本大震災被災者支援功勞表彰 医療法人川島会

川島理事長をはじめ職員が率先して被災地へ赴き、徳島県の医療救護チームとして被災者支援に貢献したとして徳島県より表彰されました。



地域社会の一員として 社会的存在として行動し、その責任を果たします

平成24年度 川島ホスピタルグループ 事業計画



1 社会医療法人への移行

- ① 社会医療法人の認可要件を整備し年内に社会医療法人化を図る。

2 外来診療の充実

- ① 免震構造を持つ新クリニックを川島病院職員駐車場跡に年度内に建設する。
- ② 引き続き僻地診療所に医師派遣を行い、僻地における医療確保に貢献する。
- ③ 冠動脈CTの診断精度を向上させ、効率的に運用する。

- ④ CT、R1、MRIを積極的に活用した動脈硬化性疾患のスクリーニング検査体制の確立。
- ⑤ 糖尿病診療において他院との医療連携を強化する。

3 通院透析の充実

- ① 脇町川島クリニックの医療スタッフを充実させ、通院を希望する透析患者の受け入れを図る。
- ② 通院支援を強化し、外来透析患者の利便性の向上に努める。
- ③ 外来透析患者分布に適応した、新たなサテライト施設の設置について検討する。
- ④ 徳島県の腎疾患対策事業に協力することにより、腎臓病外来の充実に務める。

4 川島病院の構造設備の改装

- ① 保有病床(123床)の有効利用と今後10年間の診療の質・量の変化に対応できる構造設備を検討し、25年度の病院改装

を目指す。

5 介護タクシーの運営

- ① 飛鳥が運営している介護タクシー事業を譲り受け病院直営で運営する。

6 院内不当要求防止対策の推進

- ① 院内暴力等を防止するための体制準備
- ② KHGクレーム対策マニュアルの周知徹底
- ③ 不当要求行為の防止に関する研修会の実施

7 歯科診療による患者ケアの充実

- ① 入院患者の定期的口腔ケアと歯科治療の実施
- ② 外来血液透析患者の定期的口腔ケアと歯科治療の実施

8 災害対策活動、医療事故防止活動の積極的推進

- ① 大規模震災を想定しての定期的対応訓練の実行と災害に備えての準備の実施
- ② 各種手順やマニュアルの周知徹底、実行の推進
- ③ 対策月間設定等による全職員に対する啓発、教育の強化と充実

9 教育・研究活動の強化と支援

- ① 新入職員、中堅職員、途中入職職員への教育内容の充実
- ② KHGと関連のある分野の全国規模の学

会、研究会への積極的参加の奨励と支援

- ③ KHGと関連のある分野の研修会、講演会、セミナーへの参加の奨励
- ④ 院内学習会の定期的実施と部署ごとの勉強会、抄読会の頻回実施
- ⑤ 部署目標、委員会目標の中間及び年度末フォローによる達成度評価と改善のための指導の実施
- ⑥ 部署、委員会における研究および活動テーマ発表会の実施
- ⑦ 業務上有用な資格の積極的取得の推進と支援の実施

10 地域社会との交流や関連施設との連携の強化

- ① 第15回健康福祉フェスタの実施と内容の一層の充実
- ② 広報誌の継続発行と内容の一層の充実
- ③ ホームページの内容充実とタイムリーな更新
- ④ 関連病院間や病診連携会議への積極的な参加

11 働き甲斐のある職場環境の確保

- ① チーム医療の推進
- ② 業務上の成果、努力の人事考課への正当な反映
- ③ 職員の職場労働安全衛生対策の推進
- ④ 職員に対する福利厚生への充実

人はワーファリンを2・25錠服用しており、今朝も飲んだという。3針、傷口を縫合し、包帯できつくしばったが、しばらくすると、血液がしみ出てき、止血していないことが明らかとなった。ピタミンKはあるかと問えば、ないという。取り寄せるのに何時間かかるかと云えば、2、3日後になるという。包帯をきつくまき直し、足を拳上させて様子をみたところ、1時間ほどして止血が確認でき、帰り道、スーパーで納豆を買って、食べるようにと指示して、帰宅させた。

蜂に刺された、溝に落ちた、体育の時間に胸を強打した、などなど何でもありであるが、これは、何も僻地医療という訳ではないかも知れない。

四駆で移動

だが、診療所を出ると、そこに僻地がある。県道から山の頂を見やると、山肌にごびりつくように建っている、点在する家々をみるが、往診先はまさにそういう所で、細く、回りくねった山道を四輪駆動の軽自動車ですべて患者宅へと向かう。運転してくれる診療所の職員は、全員がそのあたり育ちで、苦も無く、回りくねって山道を疾走するが、二つ間違えと谷底へ真つ逆さまと、都会育ちの当方はまさに冷や冷やものである。患者の庭先は狭く、端に近づくと、真下は谷か、一段下の幅の狭い畠かということになって



へきち 僻地医療事始め

名誉院長 島 健二

三好市国民健康保険 西祖谷山村診療所へ

医療法人として、通常の診療活動とは別の形で社会貢献を模索する中で、医療法人川島会は僻地医療を通して社会のお役に立とうという事になった。三好市国民健康保険西祖谷山村診療所が対象となり、その診療支援要員の一人として私が選ばれ、昨年5月から週1日お手伝いに行っている。

ある年齢になると、社会奉仕に一定の時間を割くべきと考えており、そのつもりでお引き受けした徳島県医師会糖尿病対策班の仕事も、丁度、段落したところで、その意味ではtimelyなお申し出で、喜んで引き受けさせていただいた。しかし、いざ、実際に勤務するという事になると、若干、気がかりな事がないわけではない。徳島市内から100km離れた山間部への移動もそのひとつで、自動車で片道2時間はかかるという事になると、それはちょっと大変という思いであった。車で送迎してもらっているため、思っていたより楽であるが、それでも大雨警報で2度、大雪注意報で1度通行止めにあつて、やはり、これが僻地かと、僻地を実感させられた。

何でも診る

診療所は、電子カルテシステムが完備し、小児処方では体重をインプットするとコンピューターが自動的に処方量を提示してくれる。診察所へ行くのを嫌がるので、という言葉に迎えられ、診察をして、後で、診療所に薬を取りに来るように、で、大抵の場合、終わりととなる。

自然の癒しと厳しさ

こぎれいな、開け放たれた平屋の居間から見渡せば、谷の向こうの山腹に隣の家があり、春先などは、ほんに長閑な眺めである。ところが、冬雪に閉じ込められると、大変なことになる。冬場よく1〜2週間余分に葉がほしいと言われていたが、これは、雪に閉じ込められた場合の備えのためであつたようである。

ある日、一人住いの老婦人が死亡しているのて来てほしいという電話があつた。道は御多分に洩れず、九十九折で、先に来ていた警察の車で道はふさがれ、坂道を歩いてということになった。私は居間に裸の状態であつて、先着の警察官から、事件性はないようですと言われ、型通りの死体検案をし、自然死らしいことを確認した。隣家の人の話では、昨日下の畑で畑仕事をしていての目を撃したが、今日昼前に郵便配達夫が、庭の石段に座つた状態で死亡しているのを発見、通報したとのことであつた。見れば、入口の土間に植え残した茄子の苗が数本、置きざらしにされてい

してくるし、レントゲンは自分で撮影しなければならぬが一般的な撮影は可能であり、数項目の生化学検査(HbA1cを含む)血算は至急検査として30分以内には結果を出してくれる、など、診療所での診療は、特に僻地を感じさせるものではない。ただ、市中病院での診療と異なり、何でも診るといふ、ちよつとした違いはある。

ある日、8才の女児が、頭をかがいり、かきむしつて困るといつて祖母に連れられ、診察を受けにきた。頭皮は特に問題なく、髪を見やれば、ごみのようなものが付着しているが、老眼越しでは定かでない、ルーペをと言つたが、診療所にはないとの返事。1本髪を切りとり、古い顕微鏡の弱拡大でのぞくと、髪に付着しているごみ様の物質が確認できた。頭しらみの卵ではないかと、早速、コンピューターにインストールされている今日の治療指針のしらみをクリックすると、卵とごみが画面に映し出され、一目瞭然、しらみ卵と診断することができた。このような形で、しらみ卵を観察したことがなかった者にとっては、ある種感動を覚える出来事であつた。

様々なケースに遭遇

昨夜、誤つて包丁を落とし、第1趾基部に2cmの切創を作り、包帯を巻いたが、出血が止まらないといつて、老婦人が息子に付き添われてやつてきた。老婦人。昨日は、母の日のお祝に岡山から息子夫婦がきていたが、また呼び戻すことになつたと、隣人が話していた。

時々、診療所に通院していたようので、カルテには、施設への入所を勧めているが、応ぜず一人住まいを続けていると書かれていた。最後の迎え方は、人それぞれである。この八十路余りの婦人の最後に、なんとなく羨ましさを感じさせられた。独居であつても、身内とは心が通じ合つており、人に迷惑を掛けず、安らかな死顔また座つたままの状態であつたことなどからして、多分、あまり苦しむこともなく、最後の息を引き取つたと思はれる。庭先に身を置き、近所の人の話を聞いていると、願はくは、花の下にて、春死なむ、そのきさらぎの、望月のころという西行の歌が、ふつと心をとらされた。

最新の医療機器に囲まれての最後と、どちらがより人間的であろうか。このようにして、限界集落の灯が、また二つ消えていった。



島 健二
名誉院長



② 植樹終了後の記念写真



⑥ 植樹した山の麓に看板が立てられました



③ 植樹



④ 植樹



⑤ 植樹



⑦ 森林CO2吸収量証明交付式



図③



『とくしま協働の森づくり事業』へ参画

「とくしま協働の森づくり事業」とは、徳島県が平成21年4月より施行した「徳島県地球温暖化対策推進条例」の森林・林業部門での取組として開始された事業です。これは近年欧米を中心に活発となってきた「カーボン・オフセット」の考えに基づいたものです。

我々が日々の生活を送り、経済活動をする中で、CO₂などの温室効果ガスが排出されています。まず基本的には、省エネなどでガスの排出を抑制できるように努めます。次に避けることのできない排出量を算出した上で、企業からの支援や投資等による間伐や植樹などの森林整備を行います。カーボン・オフセットとは、排出された温室効果ガスを、適正に整備された森林により、吸収して相殺することで、実質ゼロにしようという考えです。この言葉は、カーボンダイオキサイド(carbon dioxide:二酸化炭素)とオフセット(offset:相殺する、埋め合わせをする)に由来しています。



① パートナーシップ協定式にて

医療法人川島会はこの事業に参画し、平成23年8月5日、徳島県と社団法人とくしま森とみどりの会との間で「パートナーシップ協定」を締結致しました。(写真①)

協定による森林の所在地は、三好市西祖谷山村で、面積は9.00haとなります。(図②)

整備箇所図



図② 医療法人川島会 協定森林の所在値



図① 医療法人川島会 協定森林の所在地 徳島県三好市西祖谷山村

平成24年5月13日(日)、徳島県(社)とくしま森とみどりの会(社)徳島県林業公社・三好西部森林組合(協)協力の下、職員36名にてスギ、ケヤキ各40本を植栽しました。(写真②③④⑤⑥)川島会の植栽によるCO₂吸収量は、年間43.12tと認証され(図③)徳島県より「森林CO₂吸収証明書」が交付されました。(写真⑦)

医療法人川島会では、西祖谷山村診療所へ医師派遣を行っておりますが、ゆかりのある地域にて植樹活動を行うことができました。医療による健康増進はもちろんのこと、地球環境に対しても貢献できる病院を目指していきたいと考えております。



2011-2012

Photo Gallery

写真で見る
川島ホスピタルグループ行事



- 慰安旅行
 - ・パリ 2012.4-5
 - ・ハワイ 2012.5
 - ・神戸 2011.10
- とくしまマラソン 2012.4
- 健康・福祉フェスタ... 2011.11
- 阿波踊り 2012.8
- バーベキュー 2012.7

BEST SHOT

今年の1枚

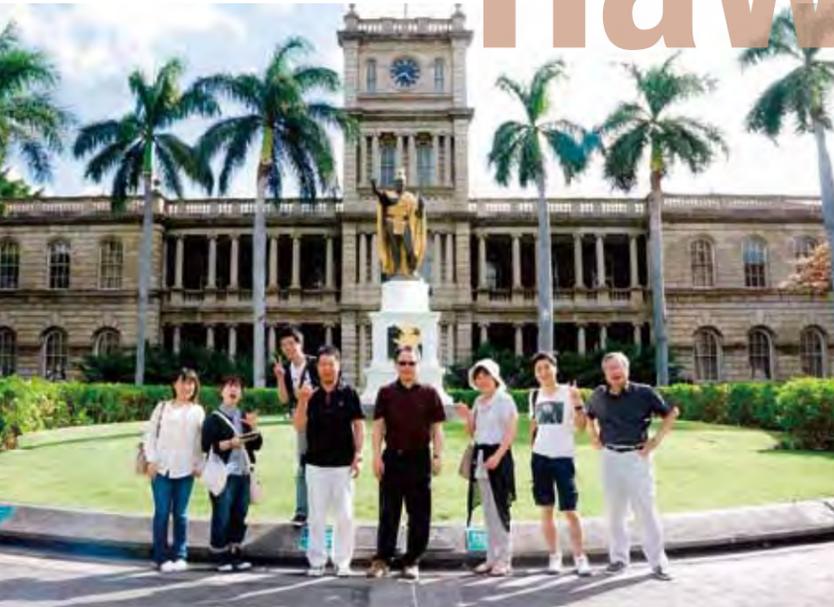
写真・川島 周



今年の病院慰安旅行中に訪れた「ホノルル州立美術館」で撮影しました。建物はコロニアルスタイルで洒落ていましたし、收藏品もなかなか粒がそろっていました。巡回バスで美術館前まで行けますので、おすすめです。

川島周

Hawaii



H24年度慰安旅行
ハワイ 4泊5日
期間:5/20~5/31
2班 24名参加



Consolation Travel 慰安旅行



H23年度慰安旅行
神戸フルーツフラワーパーク
H23.10.23



Kobe



H24年度慰安旅行
パリ 4泊6日
期間:4/11~5/14
4班 76名参加



Paris

とくしまマラソン Tokushima Marathon

とくしまマラソンとは、毎年4月下旬の日曜日に徳島県と徳島市が開催する、四国最大規模のフルマラソンです。全国ランニング大会百選に選定されています。



2008年に第1回大会が開催され、2012年度で5回目となります。2011年の第4回大会は、3月20日に実施される予定であったが、大会直前の3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、5日後の3月16日に第4回大会の延期が発表されました(代替開催日は11月6日とされた)。

川島病院遊走会・川島病院では第1回大会より遊走会を立ち上げ、島名誉院長をはじめとする4名が参加しました。その後も人数を増やしており現在では十数名もの人数が遊走会に所属しとくしまマラソンに参加しています。

第5回大会は徳島東環状線阿波しらす大橋の完成に伴い、従来コースが変更され、新しいコース

でのマラソンとなりました。当日は、大雨と強風の影響で大変厳しい環境下ではありましたが、遊走会のメンバー13名が参加し、12名が完走することができました。

とくしまマラソンは全国的にみてもとても走りやすいコースでありとても人気のあるコースだそうです。是非、とくしまマラソンに参加し遊走会のメンバーと一緒に「走る阿呆」になってみませんか？みんなで参加し糖尿病ゼロを目指しましょう。

また走るのがどうしても苦手という人は、街頭で応援するのはいかがですか？走っている選手のみならずの後ろ押しとなり力となります。一緒に徳島県を盛り上げていきましょう。

第5回 とくしまマラソン 川島病院「遊走会」レポート

前夜からの雨に開催も危ぶまれたが、どっぴり止められない阿波っ子魂の徳島マラソン。降りしきる雨の中、福島橋を12,000人が一斉にスタートした。

我が川島病院「遊走会」の旗のもと、メンバー全員スタート付近に集結し、レインコートと被った集合写真となった。今年新調した白と黒の粋なユニフォームを身にまとい、藤井師長や総務女性陣の熱いエールに送られながら遊走会マラソンの火ぶたが切られた。

思えば昨年11月、徳島マラソン打ち上げ会にて、島名誉院長の音頭により今年の徳島マラソン参加完走を決起したのであった。三月になり遊走会のメンバーも増え、佐藤看護師や藤元リーダーの肝煎りで日曜日の合同練習を開始。

病院からユニフォームやスポーツドリンクの支給など、親睦会を通じ温かいバックアップがあった。なによりあの風雨の中で、沿道の応援や写真撮影をいただいた職員の方々には頭が下がる思いで走らせてもらった。逆風のなか高橋尚子選手の併走とハイタッチには感動した。全員完走本当にありがとう。

この夜俳句会に出席したあるメンバーの句を紹介する。今回のマラソン情景がみえてくるかもしれない。

「走らねば寒し菜の花あらしかな」
遊走法師

おつかれさまでした。

放射線室長 安田 建三

遊走会のメンバーのコメント

多田 浩章
臨床検査技士

あいにくの天気でしたが、ランナー、沿道の応援、KHGスタッフの団結力、さすが徳島マラソン...最後まで完走できました

澁谷 正和
庶務課

悪天候の中での沿道の応援が背中を後押ししてくれた気がします。大変貴重な経験ができました。

麻 裕文
臨床工学技士

皆様の温かい応援のおかげで完走することが出来ました。貴重な経験を積むことが出来ました。

佐藤 裕子
看護師

4時間切りを目標としていましたが達成できませんでした。でも、参加メンバーが増え、誰一人怪我なく走れたことが良かったです。次もサブフォー狙います!!

松浦 香織
管理栄養士

初挑戦のマラソンで悪天候...。完走できませんでしたが沿道の温かい声援に力をもらった気がします。来年は7km先のゴールを目指して、リベンジしたいです。

安田 建三
放射線技師室長

横なぐりの風雨には恐れ入りました。この夜俳句会に出席し、「走らねば寒し菜の花あらしかな」の句が選に入りました。

藤元 圭一
用度課

あの悪天候の中、みなさん「走る阿呆」で大変楽しかったです。

相坂 佳彦
臨床工学技士

あの嵐の天候の中を走りきれたので、ある程度の天候のマラソンでは走りれそうです。次また機会があれば走ってみたいですね。

露口 達也
臨床工学技士

大嵐の中走るのもエラいですが、そんな中、沿道には大勢の方が応援に出てきて下さっていました。頭が下がります。来年は走る側に回りませんか？

猪龍 浩司
診療放射線技師

初めてのマラソンが最悪の天候でどうなることかと思いましたが、暑いより寒い方がよかったです。次回は時間短縮をめざしたいです。

島 健二
名誉院長

マラソンは走る度に新たな経験をしますが、大嵐の今回はまた新たな経験をすることができました。

萩原 雄一
臨床工学技士

今までの大会で経験した事のない天候の中、完走出来てよかったです。



オープニングでは力強い和太鼓の演奏が披露されました



ぜんざい・フランクフルトなど
様々な模擬店が出店しました



AED講習・救急処置模擬実演も行われました。



Health & Welfare FESTA

健康・福祉フェスタ

毎年11月に開催される、川島健康・福祉フェスタ
今年で15回目となります。(今年は11月11日に開催予定)
各部署から集まったメンバーで構成されるフェスタ準備委員会主導のもと、
職員一同、力をあわせて、準備・運営を行っています。
地域の方々との大切な交流の場となっています。



来場された方の健康相談を受けるコーナーもあります



カッコイイ!! エイサーです。



プレイクショーは子供たちに
大人気です



楽しいゲームコーナーもありました



恒例のお楽しみ抽選会の様子です



理事長先生・島先生の餅つきの様子です





阿波の殿様蜂須賀公が今に残せし阿波おどり



優雅な女踊り



雨にも負けない
高張ちようちん



勇壮な男踊り



また来年も
来ようね!



今年度は8月12日に参加となりました。川島病院連は川島理事長を含む82名(内8名はお手伝い)の職員・13名の職員の子供たちが参加しました。本番前は大雨でしたが、移動するころには雨もあがり絶好の阿波踊り日和となりました。
今年度は徳島市役所前演舞場・紺屋町演舞場で参加させていただきました。
今年参加した職員のかたからも「こんなに楽しいとは思わなかった」などの多くの喜びの声が聞かれました。

いっちに
いっちに♪



岡連長による熱心な指導を受けました

川島病院連では本番の約2ヶ月前より娯茶平七代目連長岡秀昭連長、数藤臨床工学技士の指導の下、週2回の練習を行っております。練習にはたくさんの方々が参加し汗を流しながら踊っております。

AWA ODORI 阿波踊り

徳島市の阿波踊りは8月12日～15日の4日間であり、そのうちの日曜日には、わが川島会も“川島病院連”として参加しております。(2011年発足)(娯茶平の連と一緒に参加)



8月12日は
あいにく雨模様...
川島連の熱気で
雨もなんのその!



Staff introduction



川島会の ウィリアムテル!! 吉見俊司さん!!

バーベキューパーティー

毎年、川島会の職員、また、その家族との親睦を目的に海や山へでかけていきます。今年は、美馬市にある四国三郎の郷でバーベキューを行いました。小さな子供たちも参加し、広大な自然やおいしい食べ物にはしゃぐ姿もみられました。また、みんなで協力して火を起し準備を進めることによって、自然と一体感も生まれ会話も弾みます。大勢で食べるご飯はとておいしかったです。



大苦戦・・・
なかなか火が
つかない・・・

協力して火を
起こしてまーす♪



みんなで食べるご飯は
すごくおいしい!



スイカ割りに 挑戦だ!!



おいしい!



【感想】

自然に囲まれた所で食べるご飯もおいしく、
たくさんの方々と交流できて楽しかったです。
.....
他部署の方とゆっくり話せる場となりました。
互いの親睦も深まり大変有意義な時間となり
ました。
.....
他部署の方や他職種の方と交流を持てる
場となりました。職場を離れて、楽しい時間を
過ごして仕事ももっと頑張ろうと思えました。

川島会が誇るライフル射撃の名医!!
吉見俊司看護師です☆
吉見看護師は現在川島病院透析室
で勤務しています。
吉見看護師は誰からも愛される看
護師です。

吉見さん一問一答

―射撃はいつ頃からはじめましたか?―
高校時代よりはじめました。
高校入学時の部活紹介で同好会として発足すると
説明があり、
友達に誘われて入部しました。

―どこで練習?―
徳島市入田町の徳島市ライフル射撃場です。

―ライフルの取扱いで、特に資格や所持の決まり
とかは?―
銃刀法に基づく所持許可で、3年に1回の更新と、
年1回の所轄警察署での銃の確認があります。
―普段どんなトレーニングをしていますか?―
週2回の実戦を想定した射撃練習と体幹トレニ
ングを行っています。

―これまでの実績は?―
1998年世界選手権バルセロナ大会出場
1999年ソウルワールドカップ出場
2001年アジア選手権マレーシア大会出場
10mピストルライフル40発競技 高校記録
10mピストルライフル60発競技 日本タイ
10mエアライフル60発競技 日本タイ
団体12回出場 12回入賞



―心に残っている思い出―
大学時代主将を務めたインカレにおいて、
全団体種目大会新記録、総合団体新記録で優勝で
きたことです。
―大会で勝ち進むたびに緊張の連続と思えます。
―気持ちを落ち着かせるコツなどは?―
平常心で臨めるよう練習の時からルーチンワーク
を意識して行っています。
―仕事との両立について思うこと―
理事長先生をはじめ職場のスタッフの皆さんのご
理解があり、大会に気持ち良く参加させて頂いて
おります。
そのような環境に感謝し、少しでも恩返しできる
よう結果を出したいと考えております。

第2回 川島病院 市民公開講座

第2回医療法人川島会川島病院市民公開講座「じわりと怖い生活習慣病」(同病院、徳島新聞社主催)が2012年7月1日、徳島市のホテルクレメント徳島で開かれた。

生活習慣病である腎臓病、心臓病、糖尿病、歯周病について同病院の医師らが講演。「日本人の約3分の2が生活習慣病で亡くなっている。ぜひこの機会に生活習慣を見直して、病気の予防に努めてほしい」と呼び掛けた。

質疑応答では事前に寄せられた質問に対して講演者がそれぞれ回答した。講演と質疑応答の要旨は次のとおり。



理事長・川島 周

川島周理事長あいさつ

腎疾患の治療に取り組み始めた昭和40年代後半は、感染などから若くして腎臓病を発症するケースが多く、30～40代で透析を始める人もいた。ところが最近では生活習慣病から腎臓病になる人が増えている。

生活習慣病は食生活や運動など日常生活に原因があるため、患者さん自身が生活習慣を改善すれば、自分の力で病気を治すこともできるし、生活習慣病に端を発するさまざまな病気を予防することもできる。本日の講演をぜひ皆さんの今後の健康に役立てていただきたい。



座長・水口 潤

川島病院院長あいさつ 座長・水口潤

生活習慣病はその名の通り、食事や運動、喫煙、飲酒など日常生活習慣が病気の発症に大きく関わっている。日本人の約3分の2が生活習慣病に関連した病気で亡くなっているのが現状であり、肥満は生活習慣病のリスクをさらに高めることになる。

本日は生活習慣病の中から、身近な病気として腎臓病、心臓病、糖尿病、歯周病についてそれぞれの専門医が分かりやすく解説する。最後に当病院に最近導入された前立腺肥大症の新しいレーザー治療についても併せて報告したい。

特別講演

生活習慣病としての慢性腎臓病とその対策

松尾 清一氏

名古屋大学副総長、
名古屋大学
医学部附属病院長

腎臓には血液の老廃物を尿として体外に排出する役割のほか、▽血液の中のミネラル分(ナトリウムやカリウム)を正常に保つ▽血液を造るホルモンを分泌する、などさまざまな働きがある。

腎臓の機能が低下した状態を慢性腎臓病(CKD)という。現在、日本の慢性腎臓病患者は軽い人も含めて約1330万人いるといわれている。慢性腎臓病は放置すると腎不全へと進行し、重症になると人工透析や腎移植を受けなければ生きられなくなってしまう。人工透析を受けている患者数はすでに30万人を突破しており、毎年増え続けているのが現状だ。

また慢性腎臓病から心筋梗塞(こうそく)や脳卒中など命にかかわる病気の発症リスクが高まることも明らかになっている。



慢性腎臓病は肥満や運動不足、飲酒、喫煙、ストレスなどの生活習慣が深くかかわっている。また「昔前は腎不全の原因となる病気は慢性腎炎が多かったが、今や一番の原因が糖尿病であり、動脈硬化から腎硬化症を発症して腎不全に至るケースも増えつつある。

慢性腎臓病は自覚症状が少ないため早期発見が難しい。普段から健康診断などで定期的に尿検査や血液検査を受けて、自分の腎機能をチェックしておくことが大切だ。

血液検査で測定するクレアチニンは筋肉から出る老廃物であり、腎機能が低下すると血液中にたまるため、その値が低ければ正常、高ければ要注意となる。今後の参考にしてほしい。

いったん腎機能が低下すると回復させることは難しいが、進行を遅らせることはできる。腎不全にならないためにも、普段の生活習慣を見直すとともに、高血圧や糖尿病などの生活習慣病がある人はきちんと治療しておくことが重要だ。

講演①

狭心症や心筋梗塞にならないために



西内 健
(川島病院副院長)

狭心症は心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が動脈硬化で狭くなり、血流が不足すること(虚血)により一時的に胸が苦しくなる。心筋梗塞は冠動脈が血栓で詰まって心臓の筋肉に血液が流れなくなり、長時間胸の症状が続く。

狭心症や心筋梗塞は動脈硬化から引き起こされるが、動脈硬化の危険因子には高血圧・脂質異常症(高脂血症)・内臓肥満・喫煙などが挙げられる。

動脈硬化の予防と生活習慣改善のポイントを紹介したい。

血圧の目標値は一般の人で140mmHg未満、糖尿病心筋梗塞や腎疾患の合併がある人は130mmHg未満

が望ましい。普段から家庭血圧を測って記録しておくことと血圧の管理に役立つ。コレステロールはLDL(悪玉)コレステロールの値が140mg/dl以上の場合生活習慣の改善が必要。HDL(善玉)コレステロールは動脈硬化を予防するのが高いほうがよい。適度な運動はHDLを上げる効果もあるのでお勧めしたい。

生活習慣の改善として①運動は速歩かスロージョギングレベルで1日30分以上、週3回以上行う②塩分は1日6g以下に抑える③野菜・果物・魚は積極的に食べる④アルコールは1日25gが適量⑤禁煙⑥減量(BMI 25未満を目標)などが挙げられる。

狭心症、心筋梗塞は気をつけなければ必ず予防できるというものではない。自分の体の状態を把握して、悪い生活習慣があれば、それを改善するとリスクは確実に減る。一つでも一つでもリスクを減らして、大きな病気にならないように気をつけてほしい。



◆開会あいさつ
川島 周
医療法人川島会理事長

◆座長あいさつ
水口 潤
川島病院院長

◆特別講演
「生活習慣病としての慢性腎臓病とその対策」
松尾 清一氏
名古屋大学副総長・名古屋大学医学部附属病院長

◆ストレッチ
大石 晃久
川島病院リハビリ室主任理学療法士



◆講演①
「狭心症や心筋梗塞にならないために」
西内 健
川島病院副院長

◆講演②
「徳島県民にとって糖尿病とは？」
野間 喜彦
川島病院糖尿病科部長

◆講演③
「歯周病とわかったら」
川島 友一郎
川島病院歯科医師

◆事例報告
「新しい前立腺肥大症レーザー手術の御紹介」
西谷 真明
川島病院泌尿器科部長

◆質疑応答

講演
②

徳島県民にとって 糖尿病とは



野間 喜彦
(川島病院糖尿病科部長)

徳島県が糖尿病死亡率14年間連続全国ワースト1位だったことはよく知られている。平成19年には7位まで下がったものの、その後、現在まで4年連続でワースト1位が続いている。

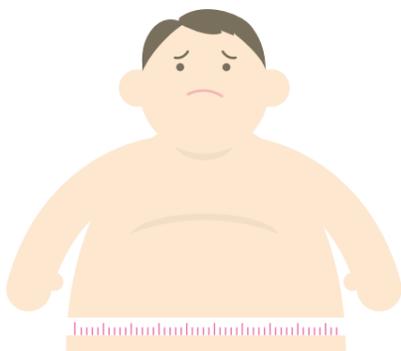
平成15年の調査では県民40歳以上で10人に1人が糖尿病、4人に1人は糖尿病予備軍であった。さらに▽3人に1人が食べ過ぎ▽間食する人の割合が高い▽肥満者の割合が高い▽1日あたりの歩数が全国平均よりも1000歩少ない、などの結果が出た。

そこで県と県医師会は平成17年に「糖尿病緊急事態宣言」を発令し、さまざまな啓発活動に取り組んできた。平成22年の県民健康栄養調査では、

県内の糖尿病患者とその予備軍の数は減少。肥満者の割合も減り、1日あたりの歩数も全国並になった。県民の努力によって、ワースト1位脱却も近いと期待できる結果であった。ただしメタボリックシンドロームの人が増えているほか、間食する習慣も変わらず多い。

お菓子を勧める習慣が吉野川沿いの地域に多く、そのエリアは糖尿病死亡率も高い。この結果から、間食と糖尿病をすぐ結びつけるのは安直だが、食習慣の影響はまだまだ大きいと考えられる。糖尿病を予防し、治療するために、それまでの食生活や生活習慣を見直して、血糖や体重、血圧などの継続的な自己管理が不可欠である。

また、糖尿病を、早期発見するために検診を受けることが大切である。治療を早くはじめ、合併症による生活の質の低下を防ぎ死亡リスクを下げよう。病気を正しく理解して、自分の体を守るために必要な治療を継続して受けることが大切だ。



事例
報告

新しい前立腺肥大症 レーザー手術の御紹介



西谷 真明
(川島病院泌尿器科部長)

前立腺肥大症とは加齢とともに前立腺が肥大し、排尿障害をきたす男性特有の病気。薬物治療では、前立腺の緊張を和らげる薬や前立腺を小さくするホルモン剤の服用が一般的だが、薬の効果が出にくい人や中等度から重度の症状が見られる人には手術が適応となる。

手術は経尿道的前立腺切除術(尿道

から内視鏡を挿入して電気メスで前立腺を切除する)が標準的な治療法になるが、最近では前立腺レーザー手術が体に負担の少ない治療法として急速に普及してきている。

現在、前立腺肥大症のレーザー手術において、海外ではグリーンライトレーザー手術が最も多く選択されている。手術法は緑色の特殊なレーザー光を尿道から前立腺の組織に照射し、組織を蒸散(蒸発)させて肥大した部分を除去する。グリーンライトレーザー手術のメリットは

①出血が少ない②術後の痛みが少ない③尿圧迫止血の必要はなく、手術翌日には尿道カテーテルを抜ける④治療成績も前立腺切除術と変わらない⑤入院期間が短い(4日程度)などが挙げられる。

日本では昨年6月から保険適応となり、当院では今月から四国で初めてグリーンライトレーザー手術を導入している。前立腺肥大症の治療はかなり進歩しているので、お悩みの方は一度相談していただきたい。

講演
③

歯周病とわかったら



川島 友一郎
(川島病院歯科医師)

歯周病は歯周組織に歯周病菌が感染し、歯肉(歯茎)が腫れたり、出血したり、最終的には歯が抜けてしまう病気。

歯周病になると▽歯茎が腫(は)れる▽うずく▽冷たいものがしみる▽歯茎から膿(うみ)が出る▽口臭がする▽昔より歯が長く出っ歯に見える▽歯がグラグラする、などの症状が出る。その結果、食事がうまくできなくなったり、しゃべりづらくなったりと、生活の質そのものが低下する。

歯周病とわかった時にはかなり進行しているケースもある。普段から自分の口の中をよく見て、出血や腫れなどの違和感があれば歯科を受診すること。

質疑応答

質疑応答では、事前に寄せられた質問に対して講演者がそれぞれ回答した。司会は水口潤院長が務めた。内容は次のとおり。

■ステント治療した後の定期検査は、カテーテル検査の代わりにマルチスライスCTで代用できませんか？

(西内)CTでも検査は可能だが、ステントの径が細い場合やステントの金属に厚みがある場合、石灰化した中にステントが留置されている場合は、CTで判断するのは難しい。患者さんそれぞれにCTとカテーテルを使い分けて検査することになる。心筋梗塞は急になるものですか？

(西内)心筋梗塞を起こした人の半数は狭心症の病歴がなく発症している。一方で強い狭心症の発作が出て、それはいったん治まったものの、次に起こった発作が心筋梗塞だったという人も多い。狭心症の発作を初めて経験したとき、またはいつもより強い発作が出た場合は、心筋梗塞の前触れの可能性がある。速やかに医療機関を受診してほしい。

■糖尿病予備軍とはどういうことですか？

(野間)血糖値が正常よりは高く、糖尿病と診断される値よりは低い状態にある人を予備軍という。予備軍の状態でも、大血管の動脈硬化はやや進み

定期的に歯科で歯垢(しこう)・歯石をとってもらい、自宅できちんとブラッシングすることが予防につながる。

最近では歯周病が生活習慣病であると認識されている。その理由は、歯磨きや喫煙、食生活などの生活習慣でその発症・進行が大きく左右されるといふ側面もあるが、歯周病が糖尿病合併症の一つであることも大きい。

歯周病は糖尿病を悪化させる要因であり、歯周病を治療すれば糖尿病が改善することも分かっている。徳島県は糖尿病死亡率全国ワースト1で知られるが、成人の中等度以上の歯周病の割合も全国平均に比べて高い。

そこで県は今年2月から「笑顔が踊るとくしま歯と口腔(こうくう)の健康づくり推進条例」をスタート。医科・歯科連携で糖尿病の早期発見・早期治療を意識した歯周病対策に取り組んでいる。このように歯周病は全身の病気と関連していることから、何かあれば歯科医師はもちろんのこと、医師にも相談してほしい。



やすく、数年のうちに糖尿病になる人が多いため、予備軍のときこそ食生活や運動などの生活習慣を改善して、血糖コントロールに努めてほしい。

(野間)糖尿病にもいくつかタイプがあり、遺伝的にインスリンの出が悪い人や老化などで糖尿病になる人もいる。生活習慣が原因の糖尿病であれば、食生活や肥満、ストレス、運動不足など悪い生活習慣を改善することで予防を期待できる。

■歯周病でたくさん歯をなくしました。今後進行を抑えるにはどのようなことが効果的ですか？

(川島)歯周病の進行抑制には、歯垢を除去することが重要であるため、歯ブラシの使用は必ずしも効果的ではない場合がある。普段から口の中を見て、腫れや出血などがあれば我慢せずに歯科を受診し、定期的に歯のクリーニングを受けてほしい。

■歯周病はほかの病気を引き起こしますか？

(川島)歯周病が他の病気を引き起こす事はないが、糖尿病や心筋梗塞、動脈硬化に悪影響を及ぼすということが分かっている。また歯周病が引き金になって高齢者の誤嚥性(ごえんせい)肺炎や妊婦の方の早産のリスクを高めることも分かっている。

■前立腺肥大症はどの時期に手術したら良いですか？

(西谷)膀胱(ぼうこう)に尿がたまっているにもかかわらず尿が出ない尿閉(にょうへい)の状態や血尿が出る場合、また中等度から重度の症状、薬の効きが悪い場合などに手術が適応となる。レーザー治療については、症状が軽い人でも希望すれば手術が適応されることもある。

前立腺肥大症の予防法を教えてください

(西谷)高血圧や肥満、脂質異常症の人はインスリンが十分に働かないインスリン抵抗性からインスリンの分泌が過剰になりやすく、交感神経が緊張を起こして前立腺肥大症を発症しやすい。前立腺肥大に関しては生活習慣病の改善が予防につながる。食事は野菜のβカロテンや豆類のインフラボノイドなどに発症を抑制する効果がある。肉類は摂取しすぎると前立腺肥大症になりやすい。

(以上)

川島ホスピタルグループ 2011年業績集

プロフィール

医師・職員取得資格

医師・職員院外団体等役職

職員数

診療統計等

論文・総説等

学会・研究会等発表

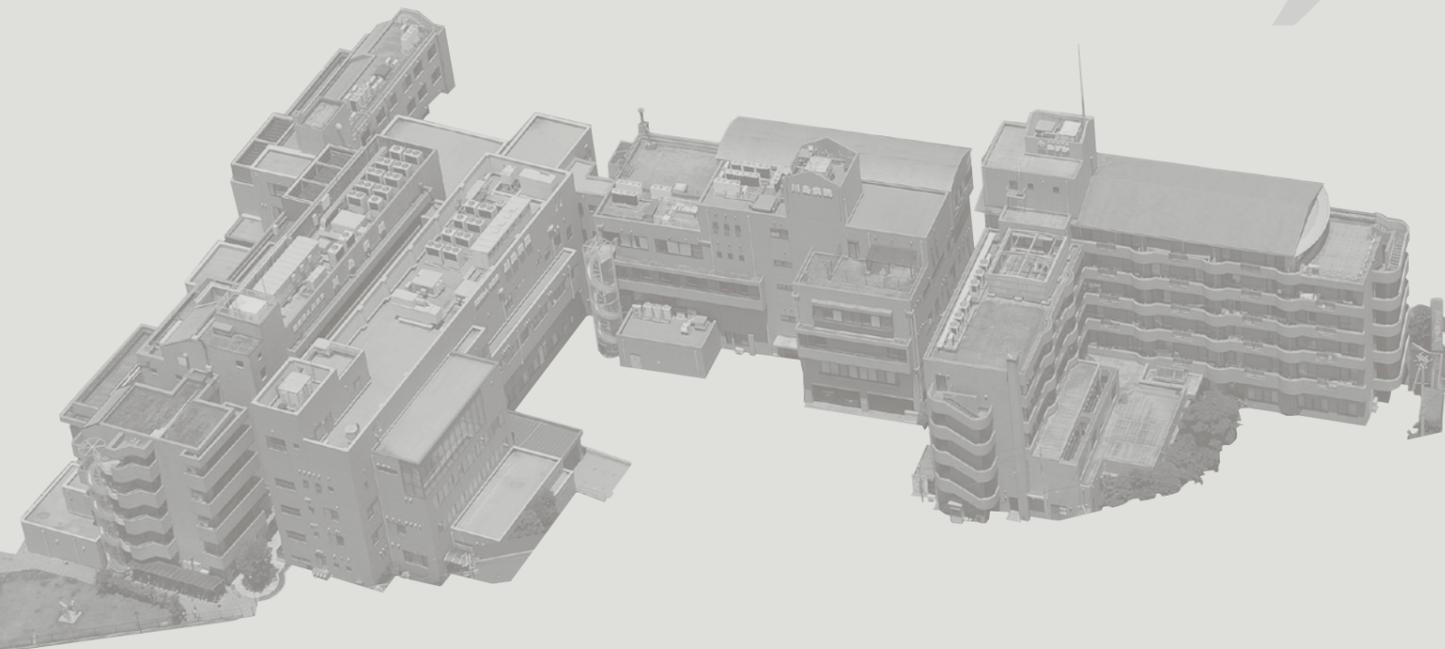
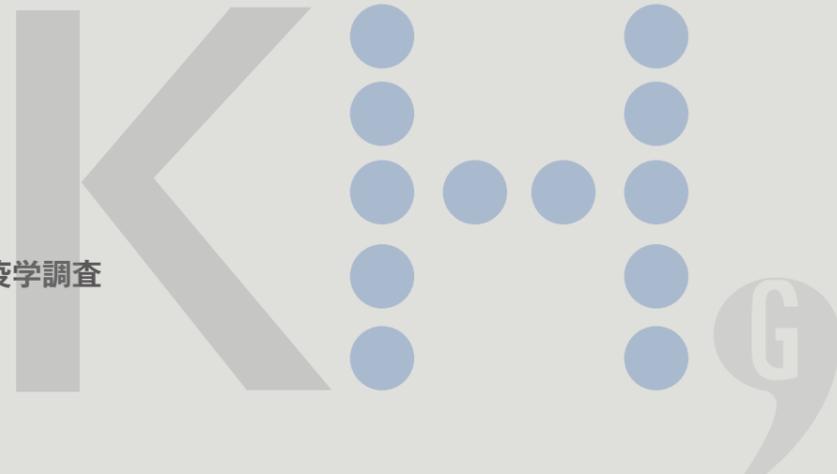
講演・講義等

座長、司会等

治験、製造販売後臨床試験、疫学調査

個人表彰

主たる行事



心、癒されて明日も頑張ります

KHG職員のペットたちです



クリーム

01 永田副看護部長

[名前]クリーム [品種]ミニチュアダックスフンド
[性別]♂ [年齢]7歳 [好きなもの]リンゴ・バナナ
[嫌いなもの]掃除機・雷の音



リッキー

02 小松Dr

[名前]リッキー [品種]ウェルシュコーギー
[性別]♂ [年齢]12歳 [好きなもの]焼き芋
[嫌いなもの]掃除機・雷の音



ベン



みいちゃん

03 日下Dr

[名前]ベン [品種]ベンガル [名前]みいちゃん
[性別]♂ [年齢]4歳 [品種]キジトラ [性別]♂
[嫌いなもの]予防接種 [年齢]1歳



ココア

04 赤澤

[名前]ココア [性別]♀
[年齢]4歳 [好きなもの]人参

ポン太

05 柳澤

[名前]ポン太
[品種]エキゾチック
ショートヘアー
[性別]♂
[年齢]5歳
[好きなもの]スイーツ
[嫌いなもの]掃除機・
ブラッシング



ロン

06 横山

[名前]ロン [性別]♂ [年齢]8歳
[名前]マリリン [性別]♀ [年齢]7歳



マリリン

川島 周	日本内科学会認定医、日本透析医学会専門医
島 健二	日本内科学会認定医、日本糖尿病学会指導医、日本老年医学会指導医
水口 潤	日本内科学会認定医、日本腎臓学会認定指導医・専門医、日本透析医学会指導医・認定専門医、日本臨床腎移植学会腎移植認定医、日本移植学会移植認定医
西内 健	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医
水口 隆	日本内科学会認定医・認定内科専門医、日本血液学会専門医、日本医師会認定産業医、介護支援専門者(ケアマネージャー)
林 郁郎	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本神経学会専門医、日本医師会認定産業医
深田 義夫	日本循環器学会専門医、日本外科学会指導医、日本心臓血管外科学会専門医、麻酔標榜医
土田 健司	日本透析医学会指導医・専門医、日本泌尿器学会指導医・専門医、日本アフエーシス学会認定医
木村 建彦	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医
小松 まち子	日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本内分泌学会専門医、日本人間ドッグ学会認定医、日本医師会認定産業医、日本医師会認定健康スポーツ医、人間ドッグ健診情報管理指導士
野間 喜彦	日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医、日本臨床検査医学会専門医、日本内科学会研修指導医
日下 まき	日本放射線学会専門医
板東 高志	日本口腔外科学会指導医・専門医
西谷 真明	日本泌尿器学会指導医・専門医、日本透析医学会専門医
橋詰 俊二	日本内科学会専門医、日本循環器学会専門医
宮 恵子	日本内科学会総合内科専門医、日本内分泌学会指導医・専門医、日本消化器病学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本甲状腺学会専門医
高森 信行	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本リハビリテーション学会指導士、日本インターベンション治療学会指導医・専門医
吉川 和寛	日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会専門医
横田 綾	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
荒井 啓暢	日本泌尿器学会専門医
柴田 恵理子	日本内科学会認定医
大下 千鶴	日本糖尿病療養指導士
西分 延代	日本腹膜透析医学会指導看護師
壽見 佳枝	日本腹膜透析医学会指導看護師
有木 直美	日本腹膜透析医学会指導看護師
数藤 康代	五学会合同認定透析療法指導看護師
田上 尚基	日本腹膜透析医学会指導看護師
小谷 明子	日本腹膜透析医学会指導看護師
小倉 加代子	日本糖尿病療養指導士、日本腹膜透析医学会指導看護師、五学会合同認定透析療法指導看護師
佐藤 裕子	日本糖尿病療養指導士
福寿 悦子	日本糖尿病療養指導士
近藤 恵	日本糖尿病療養指導士
酒井 紘子	日本糖尿病療養指導士、日本腹膜透析医学会指導看護師
三宅 直美	介護支援専門者(ケアマネージャー)
近藤 郁	介護支援専門者(ケアマネージャー)、透析技術認定士、福祉住環境コーディネーター2級、救急救命士
福永 輝美	透析技術認定士
美馬 祐里	介護支援専門者(ケアマネージャー)
赤澤 正義	放射線管理士、日本放射線技師会アドバンスド放射線技師
久米 恵司	放射線管理士、日本放射線技師会アドバンスド放射線技師
猪龍 浩司	日本放射線技師会アドバンスド放射線技師

川島病院のプロフィール(2012年8月1日現在)

■ 標榜科目

内科、腎臓内科(人工透析・腎移植)、糖尿病内科、循環器内科、循環器外科、泌尿器科(人工透析・腎移植)、循環器外科、リハビリテーション科、放射線科、歯科・歯科口腔外科

■ 指定

救急告示、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、感染症法38条指定

■ 届出事項

一般入院基本料10対1、DPC対象病院、入院時食事療養(1)、救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算、診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算、療養環境加算 96床、重症者等療養環境特別加算、無菌製剤処理料、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算、感染防止対策加算2、患者サポート体制充実加算、救急搬送患者地域連携受入加算、総合評価加算、データ提出加算、糖尿病合併症管理料、移植後患者指導管理料、糖尿病透析予防指導管理料、夜間休日救急搬送医学管理料、ニコチン依存症管理料、がん治療連携指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料1、歯科治療総合医療管理料、在宅血液透析指導管理料、検体検査管理加算(I)、検体検査管理加算(II)、時間内歩行試験、皮下連続式グルコース測定、画像診断管理加算2、CT撮影及びMRI撮影、冠動脈CT撮影加算、大腸CT撮影加算、心臓MRI撮影加算、心大血管疾患リハビリテーション料(I)、脳血管疾患等リハビリテーション料、運動器リハビリテーション料、エタノール局所注入(甲状腺)、エタノール局所注入(副甲状腺)、透析液水質確保加算2、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、大動脈バルーンパンピング(IABP法)、体外衝撃波胆石破砕術、体外衝撃波尿管結石破砕術、同種死体腎移植術、生体腎移植術、医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術、クラウン・ブリッジ維持管理料

■ 施設認定

(財)日本医療機能評価機構 認定(審査体制区分2 Ver.6.0)、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本透析医学会認定施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、特定非営利活動法人日本高血圧学会専門医認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

■ その他

地域病診連携室 TEL:088-631-1511 FAX:088-631-1541

鴨島川島クリニックのプロフィール(2012年8月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科

■ 指定

生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法第38条指定

■ 届出事項

透析液水質確保加算、明細書発行体制等加算

鳴門川島クリニックのプロフィール(2012年8月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科

■ 指定

生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法第38条指定

■ 届出事項

透析液水質確保加算、明細書発行体制等加算

脇町川島クリニックのプロフィール(2012年8月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科

■ 指定

生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法第38条指定

■ 届出事項

透析液水質確保加算、明細書発行体制等加算

川島 周	徳島県医師会長、日本医師会理事、全日本病院協会常任理事、徳島大学医学部臨床教授、徳島県腎臓バンク理事長、徳島県医師国民健康保険組合理事長
島 健二	徳島大学名誉教授、日本糖尿病学会名誉会員、日本臨床化学会名誉会員、日本病態栄養学会評議員、徳島県医師会糖尿病対策班顧問、徳島県保険者協議会顧問
水口 潤	徳島大学医学部臨床教授、日本移植学会評議員、日本腹膜透析医学会副理事長、日本透析医学会理事・評議員、四国透析療法研究会副会長、徳島透析療法研究会会長、日本HDF研究会理事、日本アクセス研究会理事、VAIVT研究会幹事、ハイパフォーマンスメンブレン研究会世話人、徳島透析医会会長、日本臨床腎移植学会評議員
西内 健	徳島市医師会心電図判読委員会委員、日本循環器学会四国支部評議員
水口 隆	腎とエリスロポエチン研究会評議員幹事
林 郁郎	日本循環器学会四国地方評議員
土田 健司	日本エンドトキシン研究会世話人、NPO法人日本HDF研究会評議員、バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会幹事、日本透析医学会評議員、NPO法人日本腹膜透析医学会評議員・監事、NPO法人日本アクセス研究会評議員、日本医工学治療学会評議員、徳島透析療法研究会幹事、徳島透析医会幹事、四国透析療法研究会幹事、二次性副甲状腺機能亢進症に対するPT研究会世話人、在宅血液透析研究会幹事、徳島大学医学部臨床教授非常勤講師
小松 まち子	徳島県医師会糖尿病対策班班員、徳島市医師会糖尿病対策委員会委員
野間 喜彦	日本内科学会四国支部評議員、日本臨床検査医学会中国四国支部評議員、日本糖尿病対策推進会議徳島県担当委員(日本糖尿病学会担当委員、日本糖尿病協会担当委員)、徳島県医師会糖尿病対策班班員、徳島大学医学部非常勤講師
大下 千鶴	県立看護学院准看護学科専任教師、徳島CDEJ会世話役、徳島糖尿病看護研究会幹事
数藤 康代	徳島腎不全看護研究会幹事
田尾 知浩	一般社団法人徳島県臨床工学技士会副会長
久米 恵司	徳島県放射線技師会理事、徳島核医学勉強会世話人会役員、日本放射線技師会徳島県支部理事、日本核医学技術会中四国部会理事、徳島CT研究会世話人
志内 敏郎	日本腎臓病薬物療法学会評議員徳島腎と薬剤研究会事務局徳島県病院薬剤師会理事
大石 晃久	徳島県心臓リハビリテーション研究会世話役

職員数 (2012年4月1日現在) 注:()内は2011年1月1日現在

■医療法人川島会 常勤職員総数350名(340)

- 常勤医師21名(21)
- 歯科医師2名(2)
- 非常勤医師29名(35)
- 看護師111名(108)
- パート看護師8名(8)
- 看護助手54名(50)
- 薬剤師10名(10)
- 管理栄養士6名(5)
- 臨床検査技師8名(7)
- 放射線技師9名(5)
- 臨床工学技士39名(37)
- 理学療法士3名(3)
- 歯科衛生士3名(3)
- 歯科助手1名(1名)
- 医事22名(24)
- 総務17名(17)
- 診療情報課20名(19)
- 庶務16名(15)
- 介護タクシー8名(0)

■社会福祉法人飛鳥 常勤職員総数39名(46)

- 施設長1名(1)
- 管理者3名(3)
- 介護支援専門職員5名(5)
- 訪問介護員9名(10)
- 看護師2名(2)
- 介護職員13名(10)
- 生活相談員2名(3)
- 栄養士1名(1)
- 事務員1名(2)
- サービス提供責任者2名(2)

谷 恵理奈	第一種放射線取扱主任者
足立 勝彦	医用画像情報管理士
浜田 久代	日本糖尿病療養指導士、病態栄養専門師
原 恵子	日本糖尿病療養指導士
森 恭子	日本糖尿病療養指導士
松浦 香織	日本糖尿病療養指導士
志内 敏郎	医療安全管理者、第一種衛生管理者、認定実務実習指導薬剤師
田尾 知浩	透析技術認定士
萩原 雄一	医療安全管理者
播 一夫	透析技術認定士
細谷 陽子	透析技術認定士、透析技能検定試験2級
数藤 敬一	透析技術認定士
原 俊夫	透析技術認定士
清水 一郎	透析技術認定士
成瀬 裕深	透析技術認定士、透析液水質管理責任者
神村 久美	透析技術認定士
廣瀬 大輔	透析技術認定士
中野 正史	透析技術認定士
東根 直樹	透析技術認定士
英 理香	透析技術認定士、透析液水質管理責任者、3学会合同呼吸療法認定士
来島 政広	透析技術認定士
森 浩章	透析技術認定士、透析液水質管理責任者
露口 達也	透析技術認定士、福祉住環境コーディネーター2級
道脇 宏行	透析技術認定士、透析液水質管理責任者
田中 悠作	透析技術認定士
鎌田 優	透析技術認定士
西内 陽子	透析技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士
中條 恵子	健康食品管理士
多田 浩章	超音波検査士
片山 悦子	超音波検査士
前田 さおり	嚙下トレーナー-歯科衛生士、認定歯科衛生士(認定分野B:障害者)
川尻 和子	嚙下トレーナー-歯科衛生士
中川 順二	病院管理士
松平 敏秀	病院管理士
宮島 彰子	診療情報管理士、病院管理士
原 雅子	診療情報管理士
山形 篤史	診療情報管理士
辰巳 奈月	診療情報管理士
佐川 裕基	診療情報管理士
三橋 一人	福祉住環境コーディネーター2級

■川島 周
●日本一の透析医療を目指して
月刊基金 月刊基金2011年12月 社会保険診療報酬支払基金、6-8、2011

■Kenji Shima,Keiko Chujo,Mayumi Yamada,Machiko Komatsu,Yoshihiko Noma and Takashi Mizuguchi
●Lower value of glycosylated haemoglobin relative to glycaemic control in diabetic patients with end-stage renal disease not on haemodialysis.
Ann Clin Biochem,10,1-7,2011

■島 健二
●わたしと糖尿病—糖尿病とともに50年
プラクティス、28、60、2011

■島 健二
●雀百まで踊りわすれず
糖尿病の最新治療、フジメディカル出版、2、102-103、2011

■島 健二
●揺籃期の膵グルカゴン、消化管グルカゴン研究
International Review of Diatetes、メディカルレビュー社、2、291-295、2011

■島 健二
●日本発の血糖管理指標グリコアルブミンの有用性
DITN、メディカルジャーナル社、400号、2011

■島 健二
●次の50年の頂を目指して。
日本臨床化学会50周年記念誌、日本臨床化学会四国支部、133-136、2011

■島 健二
●糖尿病治療のあり方・食事・運動療法からインスリンまで
小松島市医師会報、46、19-21、2011

■水口 潤
●透析医療における利益相反とは
EBM透析療法 中外医学社、263-266、2011

■水口 潤
●透析医療における透析液エンドトキシン・細菌検査とその臨床的意義
Schneller ファルコバイオシステムズ、8-11、2011

■水口 潤
●血液透析濾過：最近の話題—効用のエビデンス、展望・課題—
日本透析医学会誌 Vol.26 No.2、195-202、2011

■水口 潤
●VA作製後の管理：患者教育
臨床透析 6月増刊号 バスキュラーアクセス 作製・管理・修復の基本方針日本メディカルセンター、146-152、2011

■水口 隆
●ヘモグロビンの変動
透析フロンティア 21 メディカルビュー、8-11、2011

■水口 隆
●透析医療に必要な薬の使い方 そのほかの原因による貧血
腎と透析 東京医学社、2011

■水口 隆
●血液透析患者におけるrHuEPO製剤を対照としたC.E.R.A.の無作為化2重盲検比較試験
臨床透析 27 日本メディカルセンター、723-736、2011

■土田 健司、道脇 宏行、細谷 陽子、水口 潤
●疫学研究と臨床研究
腎と透析 69 別冊ハイパフォーマンスメンブレン'10 東京医学社、6-10、2011

■土田 健司
●専門医資格診療実績(症例要約)モデル集 改訂第5版 透析専門医のための研修カリキュラム
(社)日本透析医学会、24、2011

■土田 健司
●特集「血液透析と腹膜透析」血液透析の合併症
透析ケア MCメディカ出版、32-33、2011

■土田 健司
●特集「血液透析と腹膜透析」腹膜透析の合併症
透析ケア MCメディカ出版、34-35、2011

■外来患者延数 40,335名(39,586)

■歯科患者延数 9,747名(8,540)

■入院患者延数 31,405名(26,885)

■新入院患者数 川島病院1,621名(1,560)

■血液透析患者数(3月31日現在)

川島病院	鴨島川島クリニック	鳴門川島クリニック	脇町川島クリニック	合計
585名(618)	121名(113)	142名(167)	51名(0)	899名(898)

●新規導入数 56名(58)
●延べ回数

川島病院	鴨島川島クリニック	鳴門川島クリニック	脇町川島クリニック	合計
94,899回(94,634)	22,189回(24,865)	18,106回(17,085)	5,509回(0)	140,703回(136,584)

■腹膜透析(CAPD)

●患者数／71名(76)(3月31日現在)
●新規導入数／19名(26)

■腎移植患者
●患者数／42名(37)(3月31日現在)

■主要検査
●消化器内視鏡／808件(847) ●CT／2,999件(3,418) ●冠動脈CT／414件(460) ●シャントアンギオ／49件(87) ●腎生検／38件(36)
●心カテ／152件(137) ●RI／706件 うち紹介540件(725うち紹介547) ●MRI／695件(577) ●心エコー／2,085件(2,074)
●その他のエコー／644件(556) ●骨密度／751件(750)

■手術・処置
●手術総数／578件(566) ●結石破碎／延べ161件(121) ●シャントPTA／333件(311) ●PTCA／191件(176)
●ペースメーカー植え込み／15件(9)

■栄養指導
●指導件数／3,458件(3,773)

■糖尿病教室

平成23年7月29日	「糖尿病について話し合おう」	医師・看護師・管理栄養士	参加者11名
平成23年12月9日	「糖尿病について話し合おう」	医師・看護師・管理栄養士	参加者12名
平成24年3月30日	「糖尿病について話し合おう」	医師・看護師・管理栄養士	参加者15名

■腎臓病教室

平成23年8月20日	「慢性腎臓病の基礎と食事療法」	医師・看護師・管理栄養士	参加者6名
平成23年10月22日	「慢性腎臓病の基礎と食事療法」	医師・看護師・管理栄養士	参加者8名
平成24年1月14日	「慢性腎臓病の基礎と食事療法」	医師・看護師・管理栄養士	参加者14名

■高血圧教室

平成23年9月9日	「減塩のコツ」	医師・理学療法士・管理栄養士	参加者7名
-----------	---------	----------------	-------

■リハビリ
●個別／11,757件(11,009) ●消炎／86件(280)
合計／11,843件(11,289)

■あすか(延べ)
●ケアハウスあすか入居数 591件(585)
●デイサービス利用者数 7,508件(7,765)
●ヘルパーサービス利用者数 2,067件(2,129)
●支援センター居宅サービス計画件数 1,956件(1,843)
●介護タクシー利用者 904件(904)

1月26日～28日	第44回 日本臨床腎移植学会 北村 悠樹／当院で行った腎移植レシピエントの経過	神澤 太一、吉川 和寛、中村 雅将、西谷 真明、土田 健司、炭谷 晴雄、水口 潤
1月28日	第7回 徳島腎と薬剤研究会 志内 敏郎／腎臓病薬物療法専門制度の紹介	徳島腎と薬剤研究会 事務局
1月29日	第88回 日本泌尿器科学会四国地方会 北村 悠樹／f-TUL施行による腎機能への影響の検討	西谷 真明、炭谷 晴雄、水口 潤
3月4日～6日	Japan Kidney Month, VAIVT, 日本透析医会教育セミナー 水口 潤／腎臓病薬物療法専門制度の紹介	徳島腎と薬剤研究会 事務局
3月12日～13日	第26回 ハイパフォーマンスメンブレン研究会 北村 悠樹／VPS長期成績の検討 廣瀬 大輔／透析におけるアルブミン漏出量による還元型アルブミンと酸化型アルブミンの変化について	神村 久美、吉岡 典子、細谷 陽子、土田 健司、水口 潤 廣瀬 大輔、道脇 宏行、志内 敏郎、田尾 知浩、長井 幸二郎、北村 悠樹、中村 雅将、土田 健司、水口 潤、川島 周
4月7日	第6回 徳島急性心筋梗塞地域連携研究会 木村 建彦／病診連携における冠動脈CTの有用性 ^① ～胸痛で紹介される例について～	
5月9日	川島病院病診連携会 吉川 和寛／腎機能が落ちる前に介入をーIgA腎症扁摘パルス療法ー	中村 雅将、土田 健司、水口 潤
5月13日	日本循環器学会 第98回 中国・四国合同地方会 木村 建彦／タコツボ様壁運動異常をきたした甲状腺機能亢進症の一例	
5月19日～21日	第54回 日本糖尿病学会年次学術集会 小松 まち子／糖尿病透析患者に対するビルダグリプチンの有用性の検討	野間 喜彦、島 健二、志内 敏郎、中井 真里、立川 愛子
5月19日	日本糖尿病学会年次集会 野間 喜彦／糖尿病医療連携におけるCDEJの役割と展望(ワークショップ)	
6月3日	徳島循環器疾患フォーラム 西内 健／脂肪酸測定と循環器疾患の関連性	
6月15日～19日	第56回 日本透析医学会学術集会・総会 島 健二／糖尿病透析患者の血糖管理、なぜグリコアルブミンなのか 島 健二／血糖コントロール目標値 水口 隆／当院における血液透析患者に対するEPO製剤からC.E.R.A.への切替え維持投与の有効性 水口 隆／血液透析患者の貧血治療を再考する「ESA不応性の意義と対策」 土田 健司／「血液透析量とその効果:BMG」 土田 健司／「当院におけるCKD-MBD治療の炭酸テタンの位置づけ～第2報～」 吉川 和寛／Genomic biomarkerを用いたCKD患者の心血管リスク評価の試み 志内 敏郎／透析糖尿病患者に対するビルダグリプチンの有用性の検討 志内 敏郎／血液透析糖尿病患者に対するブルダグリプチンの有用性に関する検討 道脇 宏行／リークテストがETRFに及ぼす影響 笹田 真紀／維持透析患者の小手術における抗菌薬の必要性 谷 恵理奈／血液透析患者における冠動脈石灰化増悪因子の検討 中堀 嘉奈子／透析患者の体重減少を阻止する試み	小松 まち子 中村 雅将、土田 健司、水口 潤 吉川 和寛、安部 秀斉、富永 辰也、岸 誠司、近藤 直樹、松浦 元一、長井 幸二郎、土井 俊夫、中村 雅将、土田 健司、水口 潤、川島 周 中井 真里、立川 愛子、小松 まち子、野間 喜彦、島 健二 磯田 正紀、廣瀬 大輔、中野 正史、野崎 麻子、播 一夫、田尾 知浩、土田 健司、水口 潤 土田 健司 榎本 勉、赤澤 正義、藤元 圭一、木村 建彦、西内 健 浜田 久代、原 恵子、森 恭子、松浦 香織、川西 由希子、小松 まち子、水口 潤、川島 周
6月26日	日本皮膚科学会徳島地方会 横田 綾／透析患者に対するナローバンドUVB療法の試み	横田 綾、土田 健司、水口 潤、村尾 和俊
7月2日	第89回日本泌尿器科学会四国地方会 荒井 啓暢／血液透析患者の発症した急性結石性腎盂腎炎の2例	今井 健二、西谷 真明
7月5日	第44回 徳島心血管造影研究会 木村 建彦／突発性血小板減少性紫斑病に合併した急性心筋梗塞の一例	橋詰 俊二、高森 伸行、西内 健
7月8日	高リン血症治療研究会 土田健司／川島ホスピタルグループにおけるリンコントロールの現状	水口 潤、中村 雅将、吉川 和寛
7月12日	第8回徳島腎と薬剤研究会 志内敏郎／二次性副甲状腺機能亢進症の病態と薬物療法	
7月15日～16日	第17回日本心臓リハビリテーション学会シンポジウム 高森信行／包括的心臓リハビリテーションは虚血性心疾患患者のインターベンション後の長期予後を改善する	橋詰 俊二
7月30日	第4回腎不全病態研究助成研究成果発表会 水口 隆／赤血球寿命の改善による腎性貧血の治療に関する検討	
7月31日	徳島医学会 野間 喜彦／徳島県における健康増進体制-糖尿病の見地から-	
7月31日	第243回徳島医学会学術集会 中條 恵子／慢性腎不全糖尿病患者の血糖コントロール指標 ～HbA1cの信頼性～	岡田 和美、山田 真由美、大橋 照代、小松 まち子、島 健二、水口 隆

■土田 健司、北村 悠樹、神澤 太一、水口 潤
●特集「HDF(血液透析濾過)の新しい展開 III. オンラインHDF (1)オンラインHDFとの基本的な相違
臨床透析 日本メディカルセンター、549-554、2011

■土田 健司、北村 悠樹、神澤 太一、水口 潤
●特集「血液透析-カレントトピックス」血液透析法のトピックス ダイアライザ、透析液清浄化、無酢酸透析、HDF
臨床泌尿器科 医学書院、535-541、2011

■土田 健司、中村 雅将、廣瀬 大輔、道脇 宏行、水口 潤
●HDFの臨床効果と生存への影響
腎と透析 70 別冊 HDF療法'11 東京医学社、38-41、2011

■Kenji Tsuchida, Jun Minakuchi
●Effect of large-size dialysis membrane and hemofiltration/hemodiafiltration methods on long-term dialysis patients
Basel Karger vol168、179-187、2011

■Kenji Tsuchida, Jun Minakuchi
●Albumin loss under the use of the high-performance membrane
Basel Karger vol173、76-83、2011

■土田 健司、道脇 宏行、英 理香、水口 潤
●透析液清浄化の最前線～バリデーションって難しい～
日本血液浄化技術学会会誌 日本血液浄化技術学会 19、26-32、2011

■土田 健司
●「PDの導入～Non-SMAP～」
腎と透析 東京医学社 71 別冊 腹膜透析、42-44、2011

■土田 健司
●腎代替療法の問題点を再考する「CKDの治療概念からみた腎代替療法における導入期の見直し」
腹膜透析(PD) 腎と透析 東京医学社 71、331-337、2011

■土田 健司
●バスキュラーアクセスの治療と管理 未来に向けて(著書)
バスキュラーアクセス狭窄・閉塞に対する外科的治療 東京医学社、40-47、2011

■土田 健司
●新生児と透析患者の低リン血症
Round Table Discussion Nephrology Frontier メディカルビュー社、12-18、2011

■吉川 和寛、水口 潤、土井 俊夫
●【腎疾患の病態と治療(II)】破壊性脊椎関節症
医学と薬学 65巻4号 自然科学社、471-477、2011

■志内 敏郎
●透析患者の薬の飲み方サポート 鎮痛薬
透析ケア誌 第17巻11号 MCメディカ出版、58-64、2011

■磯田 正紀、東根 直樹、松浦 翔太、細谷 陽子、田尾 知浩、石原 則幸、土田 健司、水口 潤、川島 周
●前希釈on-line HDFにおけるABH-21Pの性能評価(置換液量とTMPについて)
腎と透析 第71巻別冊 東京医学社、121-125、2011

■廣瀬 大輔、道脇 宏行、志内 敏郎、田尾 知浩、長井 幸二郎、北村 悠樹、中村 雅将、土田 健司、水口 潤、川島 周
●透析におけるアルブミン漏出量による還元型アルブミンと酸化型アルブミンの変化について
腎と透析、東京医学社、別冊ハイパフォーマンスメンブレン11、2011

■廣瀬 大輔、松浦 翔太、道脇 宏行、細谷 陽子、田尾 知浩、土田 健司、水口 潤、川島 周、押原 涉
●東レ社製血液透析器トレライトNVのHDF特性の検証
腎と透析、東京医学社、70別冊HDF療法11、2011

■道脇 宏行、田尾 知浩、石原 則幸、土田 健司、水口 潤
●ETRF認可に向けての展望
腎と透析、東京医学社、70別冊HDF療法11、14-17、2011

■原 雅子
●オンライン請求について
月刊基金 2011年12月 社会保険診療報酬支払基金、9、2011

■大下 千鶴
●病診連携について
月刊基金 2011年12月 社会保険診療報酬支払基金、9、2011

■中條 恵子、岡田 和美、山田 真由美、大橋 照代、小松 まち子、島 健二、水口 隆
●末期腎不全糖尿病患者における血糖管理指標-HbA1cの問題点-
四国医学雑誌 第67巻 第5、6号、235-240、2011

■石原 則幸、細谷 陽子、土田 健司、水口 潤、川島 周
●透析液組成とpH等に関する考察
腎と透析、東京医学社、70別冊HDF療法11、17-19、2011

川島 周	10月29日	東日本大震災について	第53回全日本病院学会、シンポジスト
島 健二	1月27日 2月3日 2月12日 2月17日 2月26日 2月27日 3月5日 3月24日 5月12日 5月26日 8月3日 8月18日 9月2日 9月30日 10月2日 11月5日 11月23日 11月24日	忍びよる糖尿病－健診の重要性－ 糖尿病診療の新展開 特定健診における受診勧奨者の医療機関への受診促進の試み どうして糖尿病にかかると?徳島県民はなぜ多い? 元気で長生き、きらめく人生 糖尿病とうつ状態 糖尿病診療の新展開 糖尿病治療のあり方－食事・運動療法からインスリンまで－ 明日の科学と臨床のために、雀百まで踊り忘れず 糖尿病治療のあり方－食事・運動療法からインスリンまで－ 糖尿病の病態と新診断基準 働く人の糖尿病対策と指導のポイント 透析患者の糖尿病治療ガイドライン 糖尿病診療の新展開 糖尿病の対策 糖尿病を知ろう! 慢性腎不全糖尿病患者の薬物療法 糖尿病を知ろう!	阿南市市民講座、講演 糖尿病患者支援のための研修・情報交換会、講演 厚生労働科学研究費補助金循環器・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業、講演 吉野川市介護予防講習会、講演 2010-2011 InterCity Meeting、講演 日常診療におけるメンタルヘルス問題対策研修会、講演 第26回金沢市北西部糖尿病地域医療研究会 NOWDMネット総会、特別講演 小松島市医師会学術講演会、講演 第6回明日の科学と臨床のために、講演 海部郡医師会学術講演会、講演 平成23年度徳島県糖尿病療養指導士研修会、講演 第3回保健師支部内研修会、講演 サノフィアベンティス社内勉強会、講演 徳島県自治医大同窓会、講演 徳島県ヘルスグリーンツーリズム、講演 香川県栄養士会県民公開講座、講演 糖尿病治療戦略セミナー、講演 徳島県社会保険委員研修会、講演
水口 潤	1月27日 3月19日 7月28日 8月27日 9月4日 10月8日 11月13日 11月23日 11月24日 12月1日 6月8日 10月13日	リン管理の重要性～炭酸ランタンの使用経験を踏まえて～ 腹膜透析における看護師の役割と将来展望 慢性腎不全治療における腹膜透析の位置づけと将来展望 PDネットワーク・高齢者腹膜透析 バスキュラーアクセスの種類・トラブル・修復法 腎移植における腎臓内科・透析医の役割 リン管理の重要性～炭酸ランタンの使用経験を踏まえて～ リン管理の重要性～炭酸ランタンの使用経験を踏まえて～ リン管理の重要性～炭酸ランタンの使用経験を踏まえて～ 腹膜透析の地域連携とチーム医療 徳島高血圧糖尿病study2011 カテーテルを使った検査とは	沖縄CKD-MBD研究会、特別講演 川崎医科大学Advance MUSCATセミナー、講演 腹膜透析講演会、講演 日本腹膜透析医学会 第6回PDセミナー、講演 第17回日本HDF研究会学術集会・総会、講演 第3回兵庫県腎移植推進懇話会、特別講演 第50回日本薬学会・日本薬剤師会中四国支部学術大会、講演 バイエル ホスレノール講演会、講演 バイエル ホスレノール講演会、講演 北九州腹膜透析研究会、講演 徳島循環器・糖尿病Joint Meeting、講演 第9回心臓病ビジュアル市民公開講座、講演
水口 隆	1月15日 5月20日 7月2日 7月7日 7月30日 8月5日 8月18日 8月25日 10月22日 10月25日 10月29日 11月4日 11月8日 11月10日 11月12日 11月15日 11月19日 11月24日 11月25日 11月26日 12月20日	血液透析患者のHb値の変動 CKD stageⅢ～VDにおける貧血管理の重要性～腎性貧血治療ガイドライン・自験例を踏まえて～ 血液透析患者に対するミルセラへの期待 CKD stageⅢ～VDにおける貧血管理の重要性～腎性貧血治療ガイドライン・自験例を踏まえて～ 腎性貧血治療学術講演会、講演 赤血球寿命の改善により腎性貧血の治療に関する検討 赤血球造血とミルセラ 腎不全に伴う貧血の成因と治療 長期間型新規ESA製剤の腎性貧血治療 「腎性貧血治療を考える」～CKDにおけるESA治療の意義、透析におけるESA治療のあり方～ 腎性貧血治療学術講演会、講演 透析腎性貧血講演会、特別講演 CKD stageⅢ～VDにおける貧血管理の重要性 ミルセラ発売記念学術講演会、特別講演 腎不全に伴う貧血の成因と治療 透析患者の貧血管理 腎性貧血の成因と治療 透析医療における適切な腎性貧血管理 透析医療における適切な腎性貧血管理 長期間型ESA製剤ミルセラへの期待 透析医療における適切な腎性貧血管理 腎性貧血について	キッセイ薬品社内研究会、講演 四万十市医師会学術講演会、特別講演 ミルセラ学術講演会、講演 腎性貧血治療学術講演会、講演 第4回慢性腎臓病(CKD)病態研究会、講演 中外製薬社内講演会、講演 第2回ESRD貧血治療セミナー、特別講演 第44回筑豊透析懇話会、講演 腎性貧血治療学術講演会、講演 透析腎性貧血講演会、特別講演 中四国透析研究懇話会学術講演会、講演 貧血管理の重要性を考える会、講演 ミルセラ発売記念学術講演会、特別講演 愛媛腎不全懇話会、講演 鴨・淀川透析Meeting、特別講演 名古屋透析合併症対策講演会、講演 名古屋透析合併症対策講演会、講演 透析合併症対策講演会、講演 千葉ミルセラ発売記念講演会、講演 ネスブ注射液発売1周年記念講演会、講演 大塚製薬社内講演会、講演



8月3日～4日	第75回日本循環器学会総会・学術集会 高森 信行／Comprehensive Cardiovascular Rehabilitation improves Long-Term Clinical Outcome 祖地 香織／血液透析患者の睡眠時呼吸障害の頻度と関連因子の検討 谷 恵理奈／血液透析導入患者における冠動脈CTの検討	橋詰 俊二、田村 克也、前田 加代子 笹山 千尋、森浦 弥生、松田 幸子 藤元 圭一、榎本 勉、赤澤 正義
9月2日～4日	第17回日本HDF研究会学術集会・総会 廣瀬 大輔／東レ社製血液透析器トセライトNVのHDF特性の検証	廣瀬 大輔、松浦 翔太、道脇 宏行、細谷 陽子、田尾 知浩、土田 健司、水口 潤、川島 周、押原 渉
9月16日～19日	第15回日本アクセス研究会学術集会 萩原 雄一／自己血管内シャント(AVF)におけるHD-Q2測定 平野 春美／バスキュラーアクセスの穿刺における諸問題 高橋 淳子／アクセス穿刺時のアルコール消毒の評価	英 理香 南 幸、土田 健司、水口 潤、川島 周、アクセス管理委員会 アクセス管理委員会
9月23日～25日	第17回NPO法人日本腹膜透析医学会 土田 健司／PD腹膜炎～カテーテル抜去手術の工夫～ 田上 尚基／腹膜透析における注・排液量測定廃止の試み	吉川 和寛、中村 雅将、北村 悠樹、今井 健二、水口 潤 酒井 紘子、近藤 惠、森下 成美、PD管理委員会、土田 健司、水口 潤
9月30日～10月1日	第41回日本腎臓学会西部学術大会 吉川 和寛／URAT1 coding regionにG774A heterozygous mutationを見出した運動後急性腎不全の一例	中村 雅将、土田 健司、水口 潤、市田公美
10月24日	第3回 川島病院 病診連携会 木村 建彦／心不全治療における非侵襲的陽圧呼吸	
10月28日～31日	第53回全日本病院学会 数藤 康代／血液透析中における抜針事故減少方法をめざして	奥谷 晴美、坂尾 博伸、永田 真美代、三宅 直美、平野 春美、川島 周
10月30日	第45回四国透析療法研究会 吉川 和寛／Genomic biomarkerを用いたHD患者の血管石灰化進行速度の検討 多田 浩章／透析患者における大動脈硬化に関する検討 岡田 和美／当院のC型肝炎患者のジェノタイプ分類とインターフェロン治療効果について 笹田 真紀／透析患者の手術における抗菌薬は必要か 英 理香／新規透析施設開設時における透析液浄化の問題点 廣瀬 大輔／ダイアライザのAlb漏出量の違いが還元型Albと酸化型Albに与える影響について 森 浩章／HDFフィルタの性能によるTMP値の違いと除去効果について	安部 秀吉、富永辰也、岸 誠司、松浦 元一、長井 幸二郎、土田 健司、水口 潤、土井 俊夫 島野 誠、木村 建彦、橋詰 俊二、高森 信行、西内 健 山田 真由美、中條 恵子、大橋 照代、水口 隆、水口 潤、川島 周 土田 健司 磯田 正紀、道脇 宏行、田尾 知浩、中村 雅将、土田 健司、水口 潤、川島 周 道脇 宏行、細谷 陽子、田尾 知浩、石原 則幸、土田 健司、水口 潤、川島 周 廣瀬 大輔、道脇 宏行、田尾 知浩、中村 雅将、土田 健司、水口 潤、川島 周
11月5日	第44回中四国医学検査学会 中條 恵子／慢性腎不全糖尿病患者の血糖コントロール指標 ～HbA1cの信頼性～ 多田浩章／経胸壁心エコー図検査にて判明した先天性右冠動脈左室への一症例 山田 真由美／自動血球計数装置 ADVIA2120iを用いた腹膜透析排液中の細胞数算定、分類への試み	岡田 和美、山田 真由美、大橋 照代、小松 まち子、島 健二、水口 隆 島野 誠 岡田 和美、中條 恵子、大橋 照代、土田 健司
11月11日～12日	糖尿病学会第49回中国四国地方会 小松 まち子／当院におけるインスリン治療からインクレチン関連薬への切り替えた症例の治療成績 野間 喜彦／糖尿病地域連携を成功させるために	野間 喜彦、島 健二、志内 敏郎、中井 真里、立川 愛子
11月27日	第42回徳島透析療法研究会 荒井 啓暢／アクセス管理におけるHD-Q2の有効性について 今井 健二／当院における透析患者におけるシナカルセト投与の検討 廣瀬 大輔／徳島県透析医会災害情報ネットワークの情報共有と施設連携 高橋 淳子／AVG穿刺におけるアルコール消毒の評価 平野 春美／無酢酸透析液(カーボスターP)の使用経験【栄養の視点から】 藤坂 舞／弾性スッキングの使用評価～透析中の血圧低下に有効か～ 重長 佐和子／ミルセラ使用が透析室看護業務へ及ぼす影響・効果 野崎 麻子／洗浄消毒剤の長時間貯留に対する検討について	今井 健二、吉川 和寛、土田 健司、水口 潤、英 理香、萩原 雄一、土田 健司 奥尾 康晴、藤元 圭一、土田 健司 アクセス管理委員会、土田 健司、水口 潤 近藤 郁、土田 健司、林 郁郎、水口 潤、鳴門川島クリニック 平野 春美、竹内 慎一、近藤 郁、林 郁郎、鳴門川島クリニック 生田 登美、吉田 和代、宮本 美鈴、鈴木 智恵、吉川 悦子、楢山 祐子、平石 好江、藤川 みゆき、吉田 美恵、佐藤 弘子、三宅 直美、水口 隆 田尾 知浩
12月4日	アセテートフリー透析療法を考える会 第4回研究会 土田 健司／「無酢酸透析液が慢性維持透析患者に与える影響の検討～無酢酸透析液群と酢酸含有重曹透析液群の前向き2群比較～	

川島 周	10月1日	第41回日本腎臓学会西武学術大会 市民公開講座「知ろう、腎臓病」	司会
島 健二	2月19日 6月2日 11月11日	第45回糖尿病学の進歩 食後高血糖フォーラム2011in徳島 第49回日本糖尿病学会中国四国地方会	座長 座長 座長
水口 潤	2月12日 3月24日 6月17日 7月8日 7月23日 9月25日 10月1日 10月30日 11月5日	日中腎・透析学術交流会 徳島透析療法研究会学術講演会 特別講演 第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会ランチョンセミナー 高リン血症治療研究会 第13回アクセス研究会セミナー 第17回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 ランチョンセミナー 第41回日本腎臓学会西部学術大会 第45回四国透析療法研究会 ランチョン教育講演II Renal Transplantation Forum 2011	座長 座長 司会 座長 司会 座長 座長 座長 座長
西内 健	1月28日 4月4日 5月31日 8月24日	徳島ATISフォーラム 第6回 徳島心筋梗塞地域研究会 徳島脂質異常症勉強会 動脈石灰化について学ぶ会	座長 座長 座長 座長
水口 隆	9月11日	第35回日本鉄バイオサイエンス学会学術集会 シンポジウム2	座長
土田健司	1月8日 3月3日 3月5日 3月5日 3月13日 4月23日 5月22日 6月19日 7月31日 9月19日 11月27日 12月13日	第8回徳島腎臓内科症例検討会 第9回川島ホスピタルグループ震災対策会議 第13回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会 ワークショップC 第13回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会 コメンテーター 第26回日本ハイパフォーマンスメンブレン研究会 第27回日本医学工学治療学会 第21回日本臨床工学会 第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会 第5回徳島PDネットワークセミナー 第15回日本アクセス研究会学術集会・総会 第42回徳島透析療法研究会 徳島透析合併症治療講演会	座長 座長 座長 座長 座長 座長 座長 座長 座長 座長 座長 座長
木村建彦	12月2日	E-Quality Meeting 徳島メディカルサークル	座長
中村雅将	4月26日	第9回徳島臨床透析セミナー 一般演題	座長
大下千鶴	6月22日 6月23日	第54回日本透析医学会学術集会・総会 口演 第54回日本透析医学会学術集会・総会 ポスターセッション	座長 座長
南 幸	2月27日	第2回徳島腎不全看護研究会	座長
永田眞美代	2月27日	第2回徳島腎不全看護研究会	座長
西谷千代子	11月27日	第42回徳島透析療法研究会	座長
田尾知浩	10月30日	第45回四国透析療法研究会	座長



土田 健司	2月12日 2月27日 6月18日 6月19日 7月22日 7月24日 7月31日 8月27日 9月3日 9月3日 9月15日 9月24日 10月1日 10月23日 10月30日	2.慢性透析療法の現況 (2)日本の現況 これからの透析医療を再考する～臨床工学技士にける期待～ on-line HDF 「オンラインHDFの臨床」 JMSのランチョンセミナーで司会とオーバービュー「透析療法における新しい治療戦略」第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会、講演 徳島PDネットと当院でのSimple PDの実践 透析関連デバイスup date 透析アクセス医療機器に期待すること トラブルとその対応 リクセルのこれまでの研究について 明日からのHDF4:HDFの臨床:オンラインHDF療法を始めるにあたって 今後のHDF療法の展開 「V型HDと大量液置換HDFの臨床的意義」 当院でのSimple PDの実践 徳島PDネットワーク事業の現状と問題点 腹膜透析の新たな展開 腎不全治療:腎不全治療:現状の問題点と将来への展望 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修	第1回 日中腎・透析学術交流会、講演 徳島県臨床工学技士会創立20周年記念式典及び学術講演会、講演 第56回(社)日本透析医学会学術集会・総会、講演 テルモ 医師講演会、講演 第13回日本アクセス研究会セミナー、講演 第5回徳島PDネットワークセミナー、講演 リクセル発売15周年記念講演会、コメンテーター 第17回NPO法人日本HDF研究会学術集会・総会、講演 第17回NPO法人日本HDF研究会学術集会・総会、講演 愛媛PD勉強会、講演 第17回NPO法人日本腹膜透析医学会、講演 第41回日本腎臓学会西部学術大会、講演 第20回中国腎不全研究会、講演 第45回四国透析療法研究会、講演
小松 まち子	12月12日	薬物療法	徳島県糖尿病療養指導士研修会、講習会
野間 喜彦	1月24日 3月3日 9月9日 9月9日 10月21日	臨床検査総論2 美馬保健所館内における糖尿病地域医療連携に関する取り組みについて 糖尿病の検査 糖尿病に立ち向かおう!糖尿病死亡率1位という状況をふまえて-インクレチン製剤を含んだ糖尿病の話	徳島大学医学部歯学部合同講義、講演 糖尿病地域医療連携システム連携会、スーパーバイザー 徳島県糖尿病療養指導士研修会、講習会 平成23年度健康を考える県民のつどい、講演 徳島県中部臨床研究会、特別講演
木村 建彦	10月22日 7月14日	狭心症の診断に冠動脈造影は必要である～冠動脈CTで十分である～ 徳島赤十字病院からのライブデモンストレーション	第3回Vascular imaging 研究会、講演 第9回四国血管内イメージング研究会、コメンテーター
田尾 知浩	1月29日	透析の基本とこれからの透析療法	徳島県腎臓病協議会、講演
大下 千鶴	9月24日	これからのPD看護はこうありたい!-患者管理の工夫とコツ-	第17回日本腹膜透析医学会学術集会・総会、講演
大石 晃久	1月26日 2月23日 3月23日 4月25日 5月25日 6月22日 7月27日 8月24日 9月28日 11月30日 12月28日 2月25日 3月25日 6月29日 9月21日 10月5日 11月10日 11月30日 12月7日	転倒予防について～転ばないための身体づくり～ 転倒予防について～転ばないための環境づくり～ 遊びリテーションの実際について ストレッチ体操について タオル体操の方法と実際 ペットボトル体操の方法と実際 全身調整運動方法について(実技) 楽しみながらの運動について～阿波踊り体操(シニア編)～ 遊びリテーションの実際について② ロコモティブシンドロームについて(講義、実技運動指導) 遊びリテーションの実際について 転倒予防について～転ばないための身体づくり～ 転倒予防について～転ばないための環境づくり～ 介護予防トレーニングについて 上手な身辺介助の仕方とポイントについて 上手な介助方法の実際(実技指導) ロコモティブシンドロームについて 膝関節痛について 膝関節痛に対する予防について	リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会 リハビリ教室、講習会
宮本 智彦	1月28日 7月20日	肩関節痛に対する予防について 腰痛に対する予防について	リハビリ講座、講習会 リハビリ講座、講習会
友成 美貴	8月17日	寝たきりが招く様々な症状とその予防法	リハビリ講座、講習会





川島病院 ケアハウスあすか



鴨島川島クリニック



鳴門川島クリニック



協町川島クリニック

川島病院 2012年6月14日撮影

■ 治験

- 川島病院 第II相試験 1件
第III相試験 6件

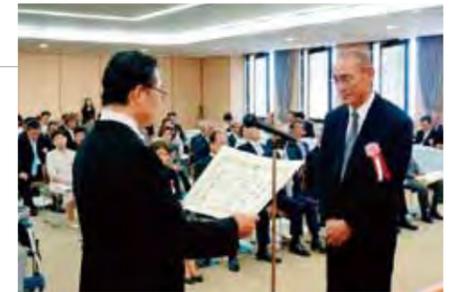
■ 製造販売後調査

- 川島病院 14件
- 鴨島川島クリニック 2件
- 鳴門川島クリニック 1件

個人表彰

安田建三さん(診療放射線技師)

多年にわたる放射線技師としての功勞に対し、県知事表彰がなされました。



主たる行事 / 2011年9月～2012年8月

2011	9月	川島ホスピタルグループ広報誌9号発行	
	10月	病院機能評価受審 病診連携会議	
	11月	第14回健康福祉フェスタ	
	12月	忘年会	
2012	1月	大規模震災防災訓練	
	2月		
	3月	第10回川島ホスピタルグループ震災対策会議 KHG研究・活動テーマ発表会	
	4月	入職式 職員歓迎会 とくしまマラソン 新入職員導入教育 職員親睦旅行(～5月)	
	5月	病診連携会議	
	6月		
	7月	第2回市民公開講座	
	8月	川島病院連 阿波踊り参加 職員親睦行事(バーベキュー)	